

阿智村

まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略

第2期計画改訂版（令和2年～9年）



村長あいさつ

「阿智家族」の想い

星ふるさと 阿智村 ～日本一の星空と花桃といで湯の郷～



この度、第2期「阿智村版まち・ひと・しごと創生総合戦略」を3年間延長する改定計画を策定しました。これは、総合戦略を令和10年度に策定する第7次総合計画に統合することとしており、計画内容を一体化することにより、双方の関係性が明確となり、総合計画と整合性の取れた総合戦略とするためです。

本村では、これまで第6次基本構想の将来像として、「暮らす、生きる。阿智家族」をスローガンに、定住プロモーションや、国・県主催の定住フェアに積極的に参加、補助事業の充実、また、南信州広域連合での広域的な取組の提唱も積極的に行って参りました。

その成果もあり、社会動態については大きな転出超過になることなく維持する事ができています。しかしながら自然動態では、近年の婚姻数の減少、それに伴う出生数の減少は、社会保障・人口問題研究所の最新の推計と比較しても2040年代後半の水準まで落ち込んでしまっています。このような状況の中で、今回村のめざすべき将来の方向として、合計特殊出生率を1.26、移動率は維持という目標を設定しました。現在の特殊出生率0.86と比較して非常に厳しい目標ですが、なんとか村の人口減少のスピードを緩め、持続的な発展、人口の維持のために目指さなければなりません。

今回の改定計画は、各施策に必要な改定を加え、KPI（評価指標）についても見直しを行いました。また、引き続きSDGsの持続可能な地域開発の精神も取り入れています。これらの計画を毎年の事業計画に反映し、全ての政策が人口の維持につながるよう村民一丸となって取り組んでいきたいと考えます。

終わりに、慎重な審議を賜りました計画審議会、議会の皆様に心から感謝し、御礼申し上げます。

令和7年3月

阿智村長 熊谷秀樹

目次

第Ⅰ部 人口ビジョン	1
第1章 策定にあたって	2
第2章 人口動向	3
1. 人口推移	3
(1) 総人口	3
(2) 年齢3階層別人口	4
(3) 人口ピラミッドの変化（2015～2020年比較）	5
(4) 自然動態と社会動態	6
1) 自然動態	6
① 自然動態の状況	6
② 出生数と出生率	7
③ 未婚率	8
④ 婚姻件数	9
2) 社会動態	10
① 社会動態の状況	10
② 通勤通学の状況	10
③ 年齢別移動状況	11
④ 定住支援センターにおける移住者受入れ数	13
⑤ 年代別居住期間	14
2. 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計値	16
(1) 総人口	16
(2) 年齢3階層別人口	17
(3) 人口の減少段階の分析	17
第3章 将来人口の推計と分析	18
1. めざすべき将来の方向	18
2. 将来人口推計と目標	19
3. 将来人口推計に基づく出生数の推移	20
4. 将来人口推計に基づく人口ピラミッドの変化（2020年～2050年比較）	21
5. 自治会別人口	22
(1) 自治会別人口の推計	22
(2) 各自治会における将来人口推計パターン	23
(3) 自治会別人口ピラミッド	25

第Ⅱ部 総合戦略	29
第1章 策定にあたって	30
1. 目的と背景	30
2. 位置付け	30
3. 計画の期間	30
第2章 阿智村のめざす姿	31
1. 阿智村のめざす姿	31
2. 基本的な視点	32
3. SDGs 達成に向けた取組について	34
第3章 基本目標と基本目標達成のための施策	35
1. しごと	36
基本目標1 地域産業の育成により働く場を創出する	36
施策1-1 地域資源を活かした観光の推進	37
施策1-2 次世代につなぐ農業	39
施策1-3 地域のしごと	40
2. ひとのながれ	42
基本目標2 定住人口の維持や減少の緩和のため居住環境を充実させます。	42
施策2-1 定住促進	43
3. 結婚・子育ての切れ目ない支援	45
基本目標3 若者が希望をもって結婚、子育てできる村をめざす	45
施策3-1 結婚しやすい環境づくり	46
施策3-2 子育てしやすい環境づくり	47
施策3-3 地域に根差した質の高い教育の推進	49
4. まちづくり	50
基本目標4 各地域の特性を生かし、安心安全なふるさとづくりをめざす	50
施策4-1 安全・安心な暮らしを営める集落環境づくり	51
施策4-2 循環型社会の構築	54
施策4-3 自治と協働の村づくり	55
第4章 計画の推進に向けて	56
1. 策定体制	56
2. 推進・検証体制	56
【資料】SDGsの17のゴール（目標）	57

第 I 部 人口ビジョン

第 1 章 策定にあたって

阿智村人口ビジョンは、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を踏まえ、本村における人口の現状分析を行い、今後のめざすべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、まち・ひと・しごと創生の実現に向けて効果的な施策を企画立案する上で重要な基礎となることを認識し、平成 27 年(2015 年)に策定しました。

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、平成 27 年(2015 年)の国勢調査を基にした推計ではやや人口減少のスピードは緩やかになっているものの、令和 2 年(2020 年)の国勢調査を基にした推計では再び人口減少が加速している状況です。

この度、令和 2 年(2020 年)国勢調査の結果が公表されたことにより、人口動向等を分析しなおし、本人口ビジョンを改訂しました。



第2章 人口動向

1. 人口推移

(1) 総人口

阿智村の人口は、昭和50年(1975年)から平成12年(2000年)までの25年間では、旧浪合村・清内路村を含め7,800人前後で推移していましたが、平成12年(2000年)以降は人口減少が進み、令和2年(2020年)時点(国勢調査)で6,068人となっており、昭和50年(1975年)から1,762人減少しています。

なお、長野県全体では平成12年(2000年)頃、全国では平成22年(2010年)頃をピークとして人口が減少へと転じています。

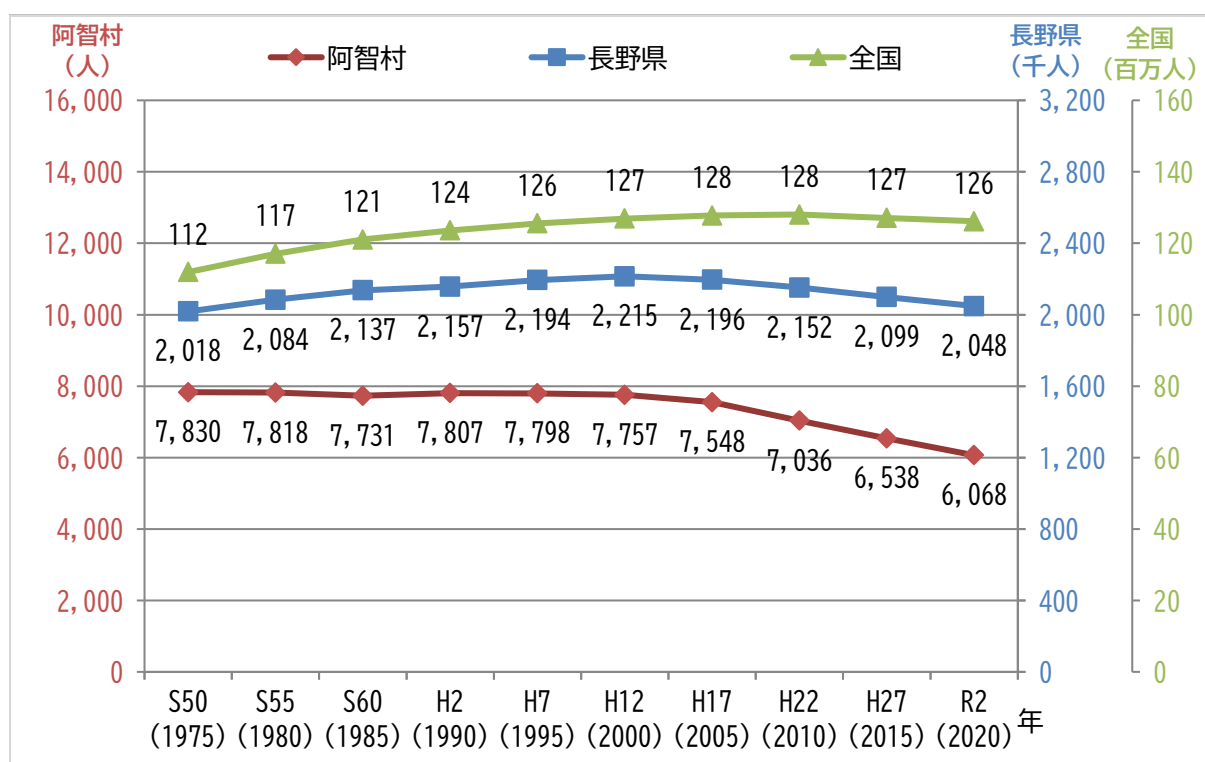


図 総人口の推移

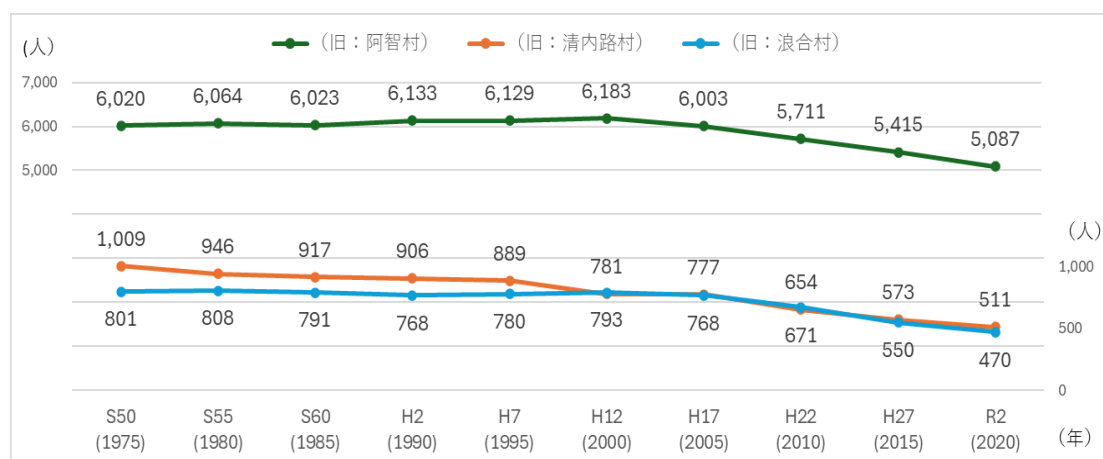


図 旧村単位ごとの総人口の推移

出典：国勢調査

(2) 年齢3階層別人口

阿智村の年齢3階層別人口をみると、年少人口*1、生産年齢人口*2は減少傾向で推移しており、老年人口*3は増加傾向で推移しています。令和2年(2020年)時点の各階層の割合は年少人口が13.1%、生産年齢人口が49.7%、老年人口が37.2%で、昭和50年(1975年)に比べ、年少人口は6.8ポイント、生産年齢人口は16.7ポイントの減少となっており、老年人口は23.5ポイントの増となっています。

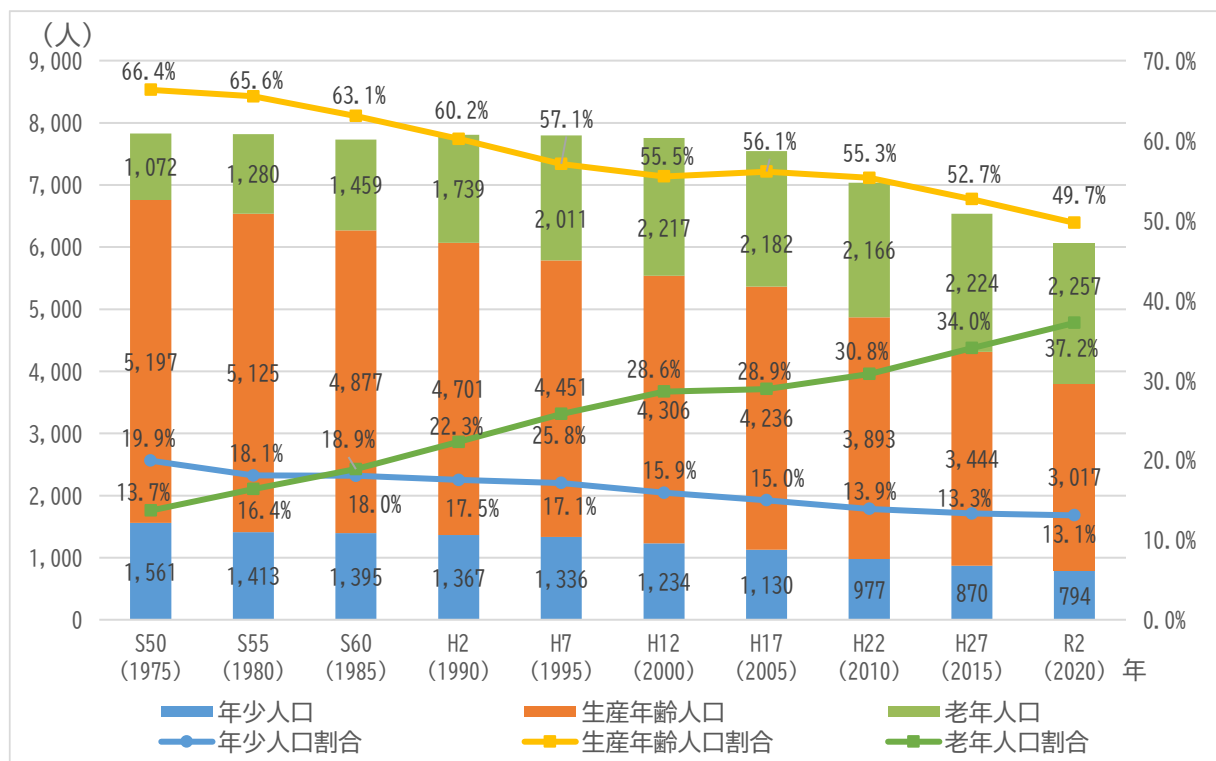


図 年齢3階層別人口の推移

出典：国勢調査

*1 年少人口 15歳未満の人口

*2 生産年齢人口 15歳以上65歳未満の人口

*3 老年人口 65歳以上の人口

(3) 人口ピラミッドの変化 (2015～2020 年比較)

平成 27 年(2015 年)から令和 2 年(2020 年)の 5 年間の村全体の人口では、470 人(-7.2%)の減少となっています。(男性：-224 人 [-7.2%] 女性：-246 人 [-7.2%])

自治会別でみると、すべての自治会で人口は減少しており、浪合・清内路は 10%以上の減少となっています。

平成 27 年(2015 年)から令和 2 年(2020 年)にかけての 5 年間を比較した村全体の人口ピラミッドをみると、男性は 10 代前半までの人口に若干の人口増がみられるものの、10 代後半から 20 代前半と 50 代後半から 60 代前半までの人口が減少しています。一方、女性は 10 代前半までと 30 代後半の人口増加がみられ、10 代後半から 30 代前半にかけての人口は減少となっています。

表 自治会別人口推移(人)

	上中関	中関	駒場	伍和	智里東	智里西	浪合	清内路	合計
2015年	579	686	1,251	1,504	1,101	294	550	573	6,538
2020年	547	619	1,218	1,406	1,022	275	470	511	6,068
増減数	-32	-67	-33	-98	-79	-19	-80	-62	-470
増減率	-5.5%	-9.8%	-2.6%	-6.5%	-7.2%	-6.5%	-14.5%	-10.8%	-7.2%

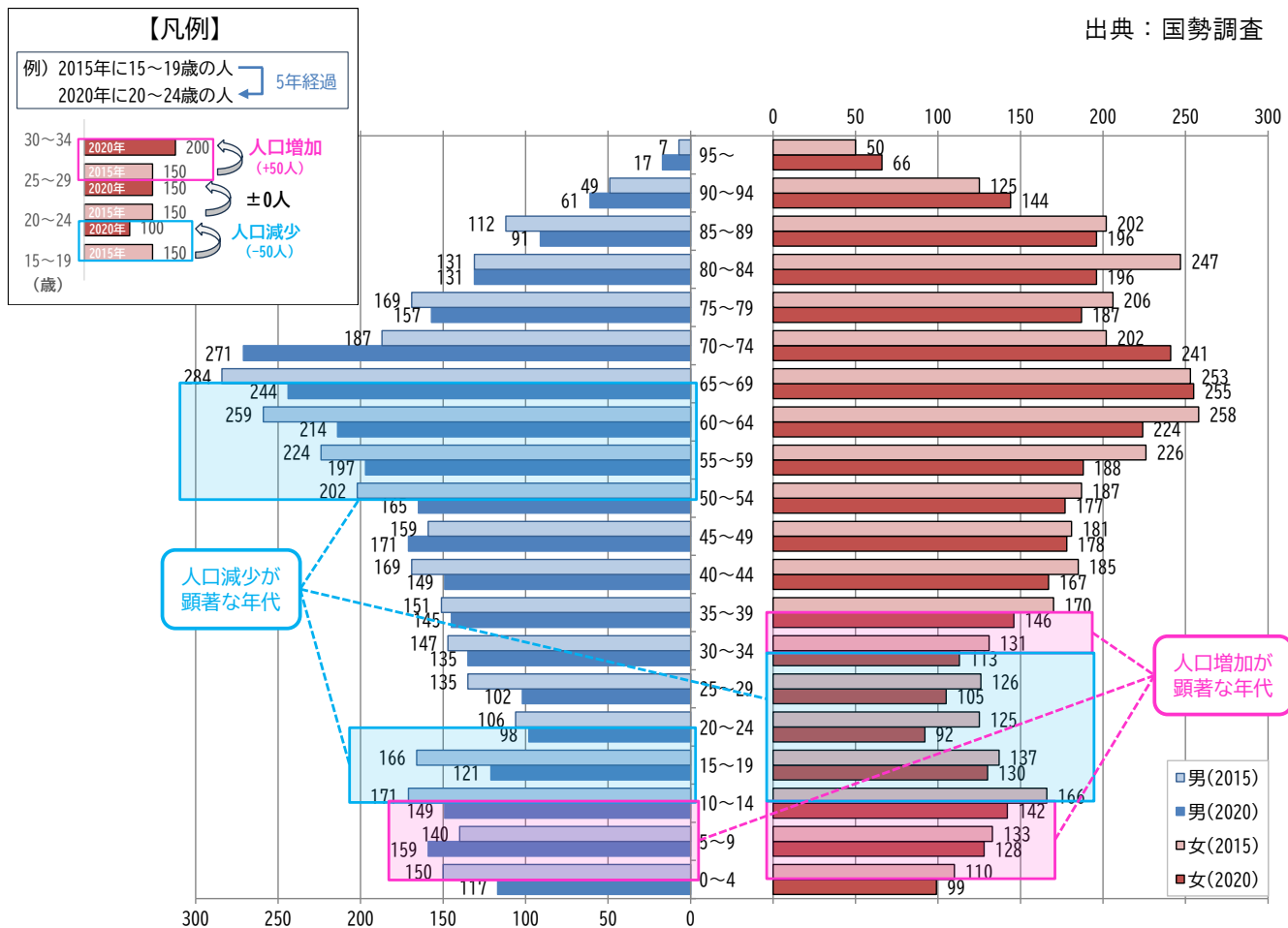


図 5歳階級別人口ピラミッド(人)

出典：国勢調査

(4) 自然動態と社会動態

1) 自然動態

① 自然動態の状況

死亡数が出生数を上回っており、自然減が続いています。出生数は40人から50人前後で推移していましたが、令和4年度(2022年度)に30人を下回り、令和5年度(2023年度)には20人と減少が顕著となっています。

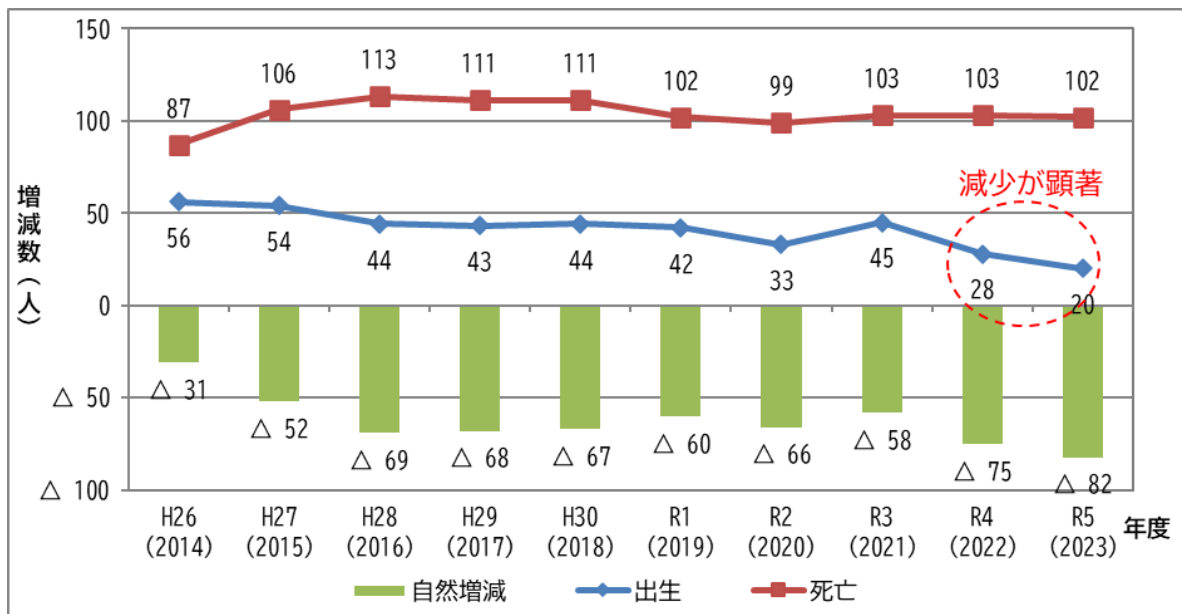


図 自然増減(出生・死亡)の推移

出典：住民基本台帳



阿智村こども家庭センター開所式

② 出生数と出生率

阿智村の合計特殊出生率は令和4年(2022年)までは1.4から1.7程度を維持していましたが、令和5年(2023年)には長野県平均(1.34)や全国平均(1.20)を大きく下回る0.86となりました。また、人口維持の基準となる人口置換水準(2.07)からも遠ざかっている状況です。

令和元年(2019年)から令和5年(2023年)における出生数は年平均35.6人となっており、平成26年(2014年)から平成30年(2018年)の年平均の44.8人と比べ9.2人少なくなっています。また、令和5年(2023年)の出生数は19人と過去最低の出生数となっています。

なお、社会保障・人口問題研究所の全国調査*1によると、理想の子ども数をもたない理由のトップとして「子育てに関する経済的負担」が挙げられています。また、これに加えて妻の年齢が35歳以上の場合は、「年齢や身体的負担」を理由として挙げる割合が高まっています。

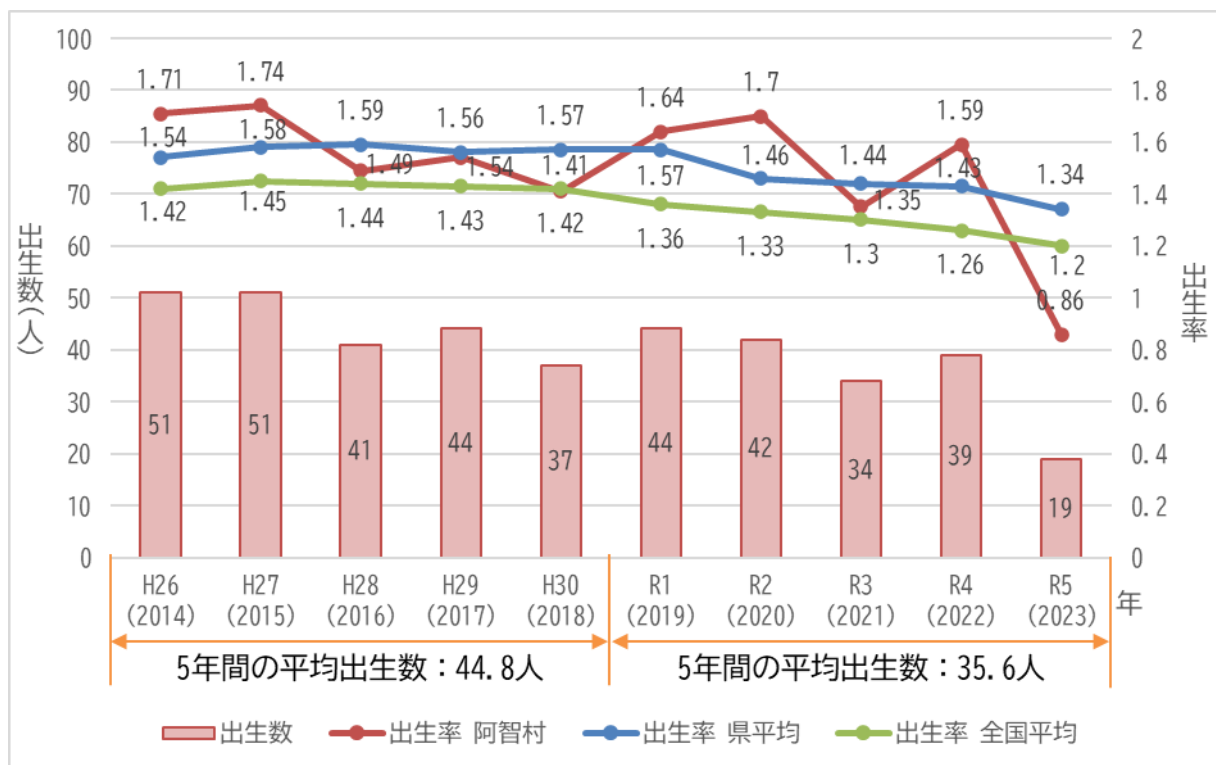


図 出生数と出生率の推移

出典：住民基本台帳
(各年1月1日～12月31日)

*1 国立社会保障・人口問題研究所「第16回出生動向基本結婚と出産に関する全国調査」(令和5年8月)

③ 未婚率

生涯未婚率*1 は近年増加傾向にあり、令和 2 年(2020 年)では全国の男性で 25.96%、女性で 16.37%、長野県の男性で 25.87%、女性で 13.84%となっています。一方、阿智村の生涯未婚率は、男性で 23.3%、女性で 9.3%であり、男女とも国及び県の数値よりも低くなっています。

年代別の未婚率では、平成 22 年(2010 年)から令和 2 年(2020 年)までを比較すると、男性では 35～39 歳、40～44 歳、女性の 30 歳～34 歳で未婚率が減少している一方、男性の 30～34 歳、女性の 20～24 歳、25～29 歳、35～39 歳、40～44 歳、50～54 歳は増加しています。

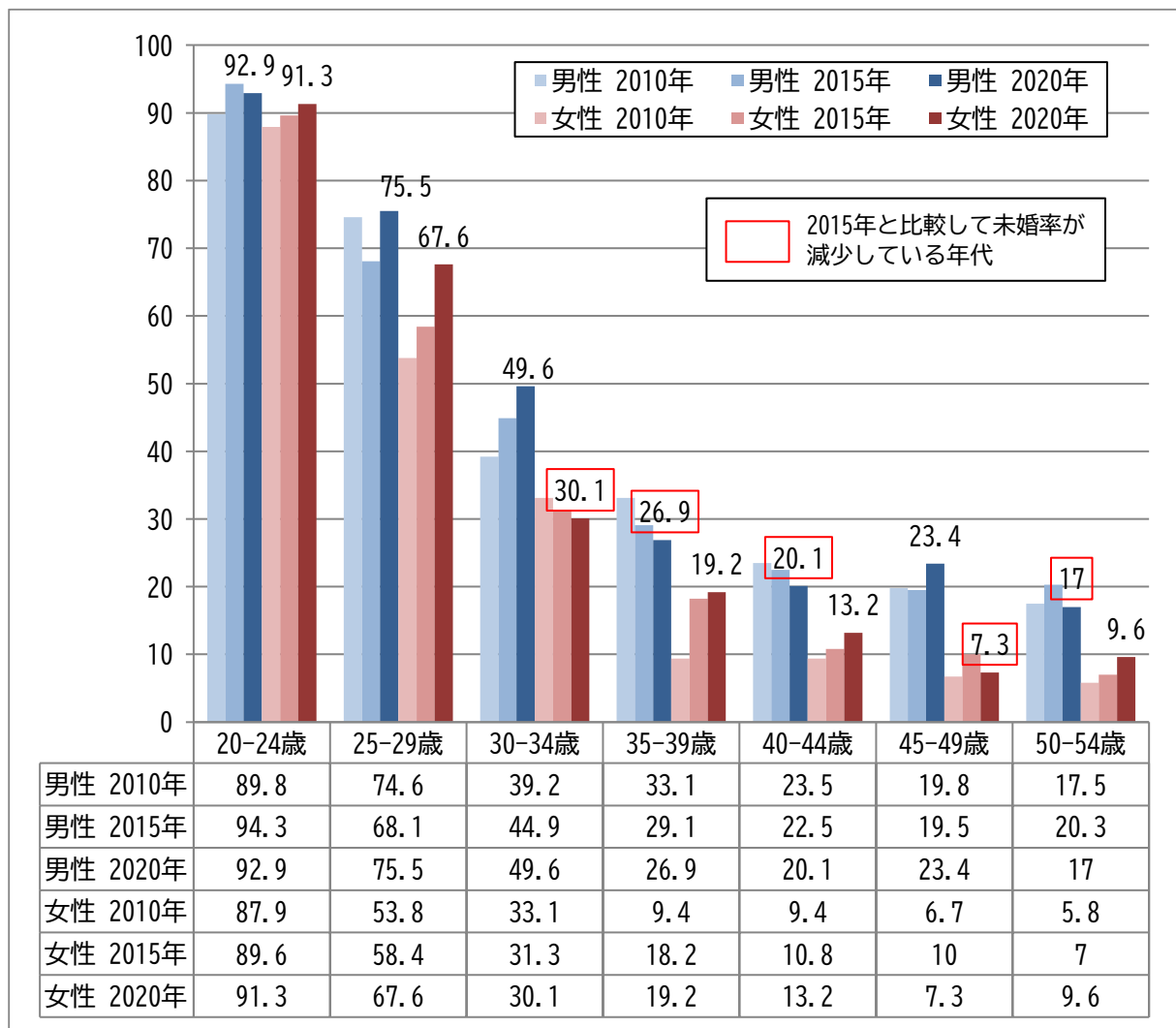


図 年代別未婚率

出典：国勢調査

*1 生涯未婚率は 50 歳時の未婚率であり、45～49 歳と 50～54 歳の未婚率の単純平均により算出する。

④ 婚姻件数

平成 24 年(2012 年)から令和 3 年(2021 年)の 10 年間の婚姻件数をみると、阿智村では令和元年(2019 年)までは年間 20 件から 30 件前後で推移してきましたが、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大した令和 2 年(2020 年)は急速に減少しています。

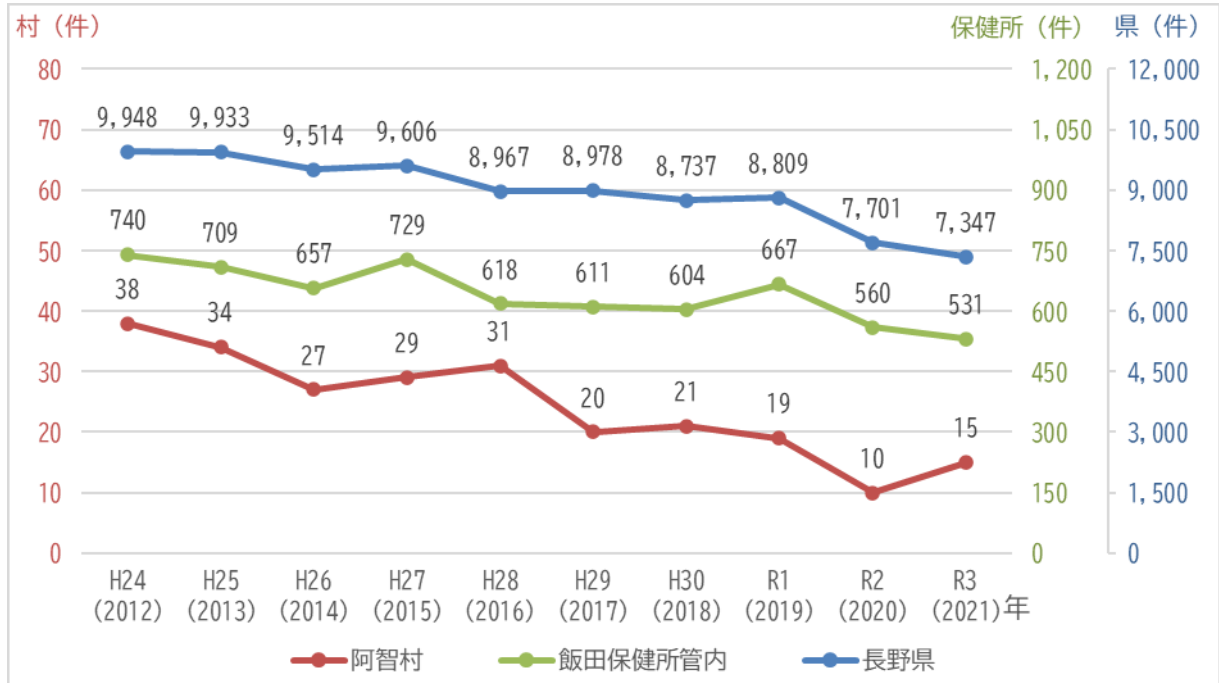


図 婚姻件数の推移

出典：長野県衛生年報

なお、18 歳から 34 歳の未婚者を対象とした社会保障・人口問題研究所の全国的な調査*1によると、結婚を望む未婚者は下落傾向であるものの、依然として 80%を超えており、阿智村においても結婚を望む未婚者が多いと考えられます。また、独身でいる理由についての設問では、「適当な相手にまだめぐり合わない」を選択する人が最も多く、近年の傾向としては「異性とうまくつきあえない」を選択する人の割合が高まっています。

*1 国立社会保障・人口問題研究所「第 16 回出生動向基本結婚と出産に関する全国調査」(令和 5 年 8 月)

2) 社会動態

① 社会動態の状況

平成 26 年度(2014 年度)から令和 5 年度(2023 年度)までの社会動態をみると、社会増となった年もみられるものの、全体的には転出超過となっています。平成 26 年度(2014 年度)からの 10 年間の平均では、年間約 25 人の転出超過となっています。

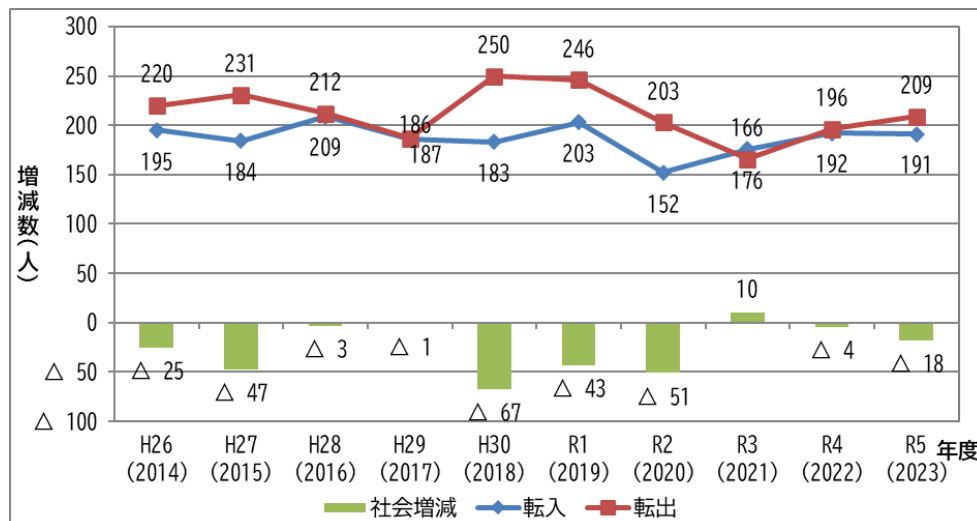


図 社会動態(転入・転出)の推移

出典：住民基本台帳

② 通勤通学の状況

村外へ通勤通学している 1,401 人の内の約 8 割が飯田市と最も多く。また、村外から村内への通勤通学している 1,282 人の約 8 割が飯田市からとなっており、隣接する飯田市との流動が多くなっています。

なお、村内で勤務している 3,342 人の約 6 割は村内在住者となっています。

表 15 歳以上の通勤通学の状況 (人)

【村外への通勤・通学】			【村内の通勤・通学者】		
	通勤	通学		通勤	通学
飯田市	1,102	138	阿智村在住者	2,060	102
下條村	65	2	飯田市	1,059	107
高森町	40	7	下條村	27	-
喬木村	23	3	高森町	25	-
豊丘村	19	3	松川町	20	1
松川町	18	4	阿南町	20	1
阿南町	20	-	喬木村	13	2
平谷村	15	4	平谷村	14	-
根羽村	12	3	根羽村	11	-
伊那市	11	-	豊丘村	10	-
駒ヶ根市	10	-	伊那市	6	-
県内(その他)	40	0	駒ヶ根市	5	-
岐阜県	8	-	県内(その他)	35	1
愛知県	5	-	愛知県	12	13
他県(その他)	13	0	岐阜県	17	1
合 計	1,401	164	他県(その他)	8	4
			村外在住者	1,282	130
			合 計	3,342	232

出典：国勢調査

③ 年齢別移動状況

平成 22 年(2010 年)から 5 年間ごとの年齢代別の移動数をみると、「10～14 歳→15～19 歳」、「15～19 歳→20～24 歳」の年代において進学や就職による転出者数が概ね 50 人～80 人の転出超過となっています。

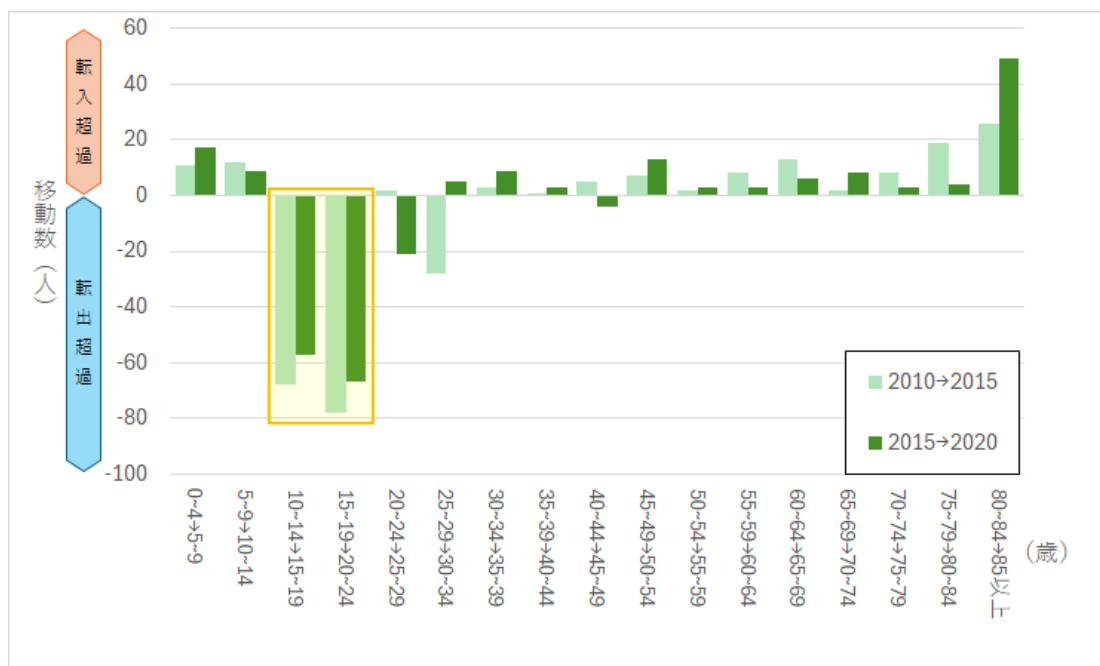
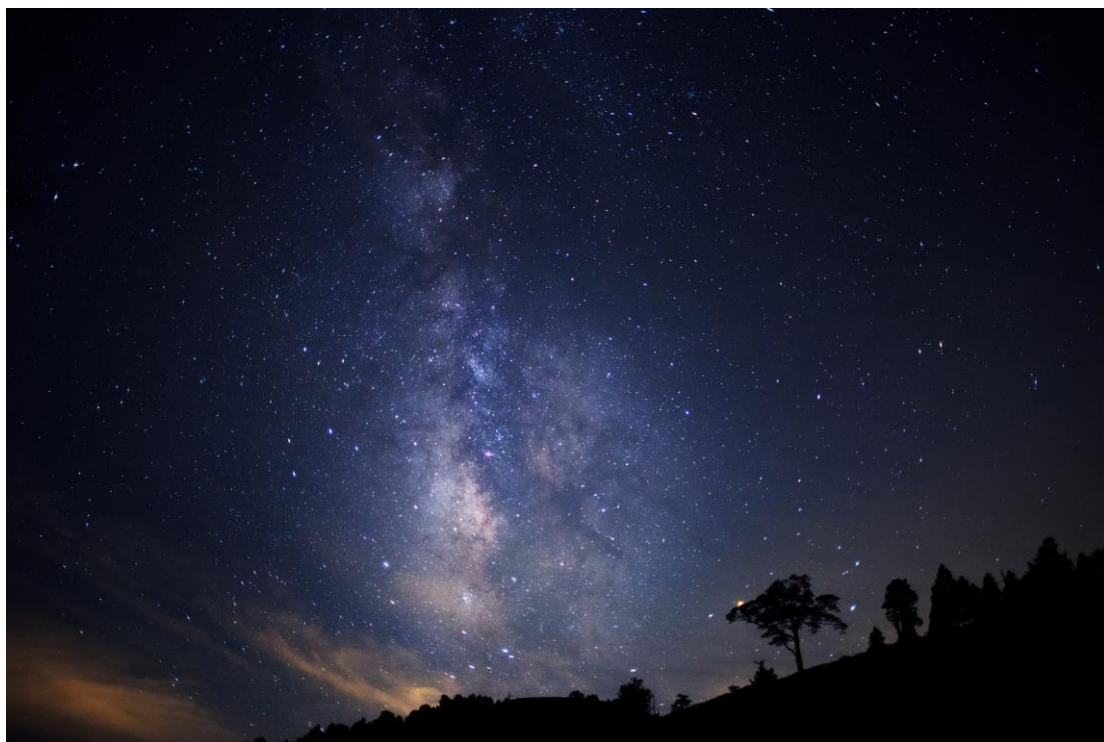


図 年齢別移動状況

出典：国勢調査



阿智村の星空

また、男女別の移動数を比較してみると、「20～24 歳→25～29 歳」、「25～29 歳→30～34 歳」の年代で、男性より女性の転出超過が多くなっています。また、「80～84 歳→85 歳以上」の年代で女性の転入超過が多くなっています。

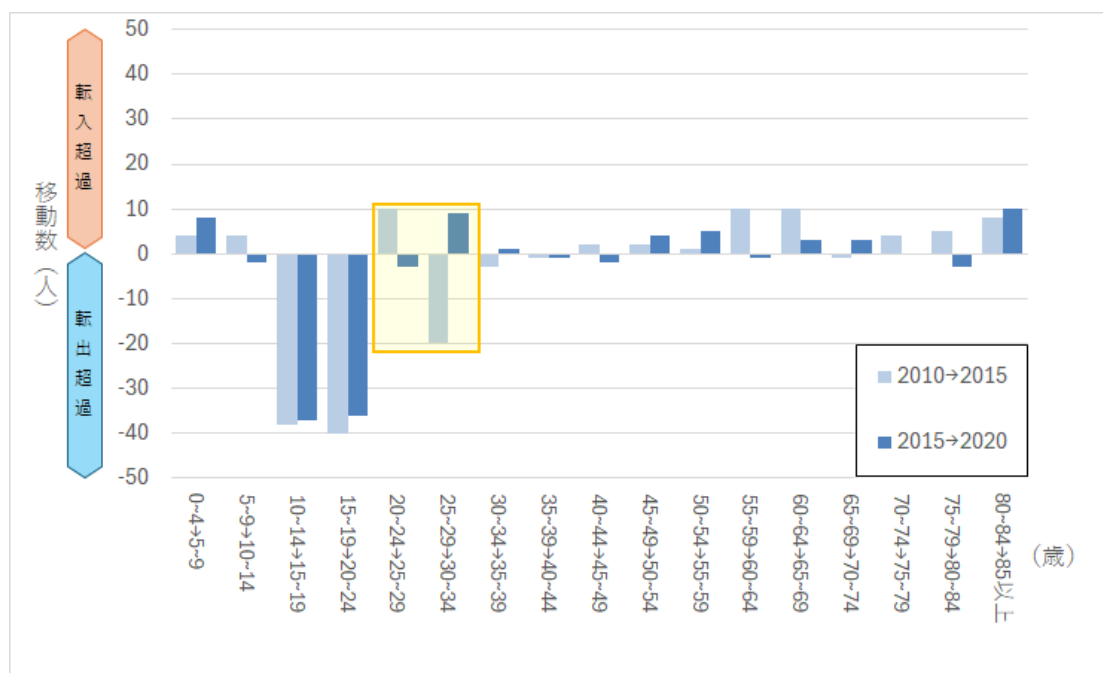


図 年齢別移動状況(男)

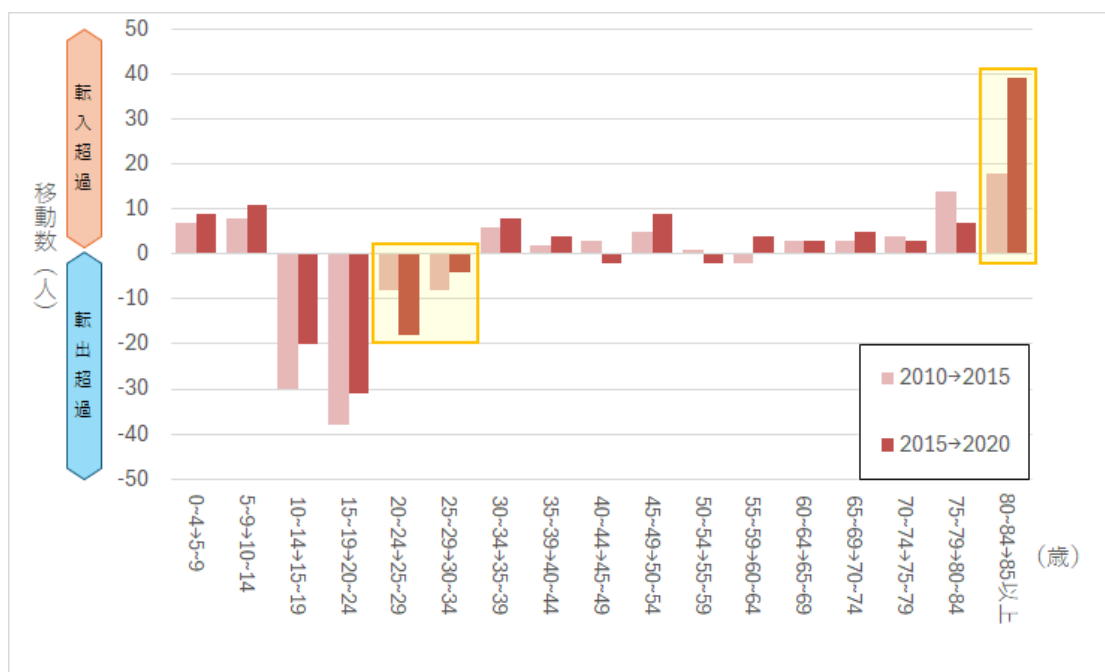


図 年齢別移動状況(女)

出典：国勢調査

④ 定住支援センターにおける移住者受入れ数

阿智村では定住支援センターを設置し、移住受入れの相談窓口として機能してきました。センターを通じて平成26年度(2014年度)から令和5年度(2023年度)の10年間に452人の移住者を迎えています。10年間を平均すると年間45人の移住者を迎えています。移住者の居住地内訳をみると、その他(長野を含む三大都市圏以外)の割合が最も多くなっています。

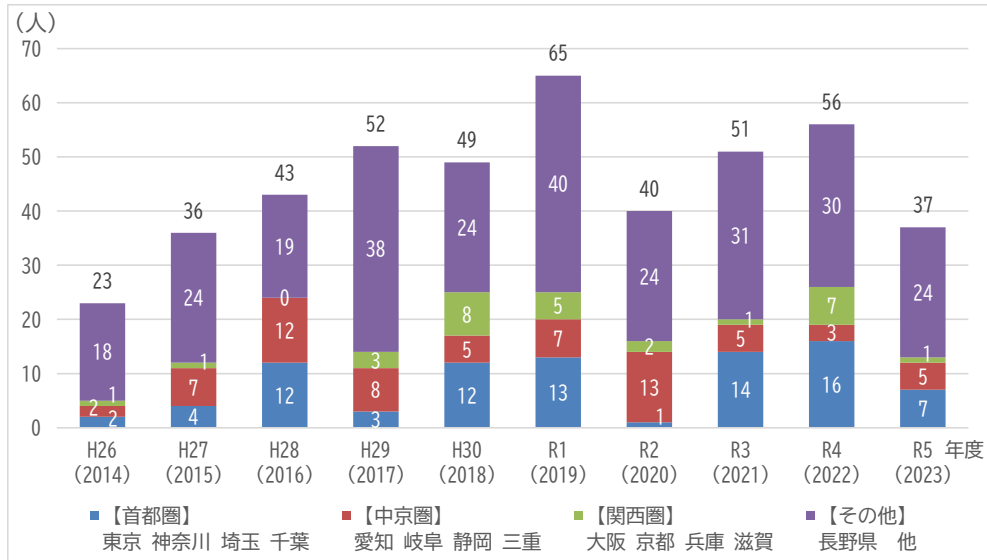


図 居住地別移住者数の推移(人)

※定住支援センターが関わったケース

また、平成26年度(2014年度)から令和5年度(2023年度)の10年間の年代別移住者数をみると、20代~40代の割合が高く、50代以上の割合が低くなっています。

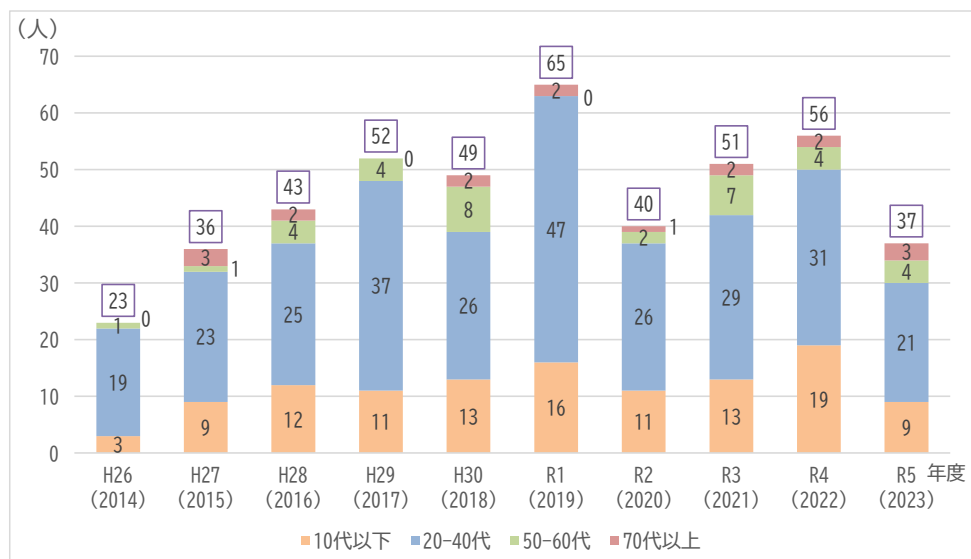


図 年齢別移住者数の推移

※定住支援センターが関わったケース

⑤ 年代別居住期間

令和2年(2020年)時点の阿智村に常住する方の居住期間を年代別に見ると、10年以上阿智村に常住している方は全体の約5割で、40代から80代の年代で多くみられます。また、出生時から阿智村に常住している方は約3割となっており、阿智村に長期間常住している方が多いことがわかります。

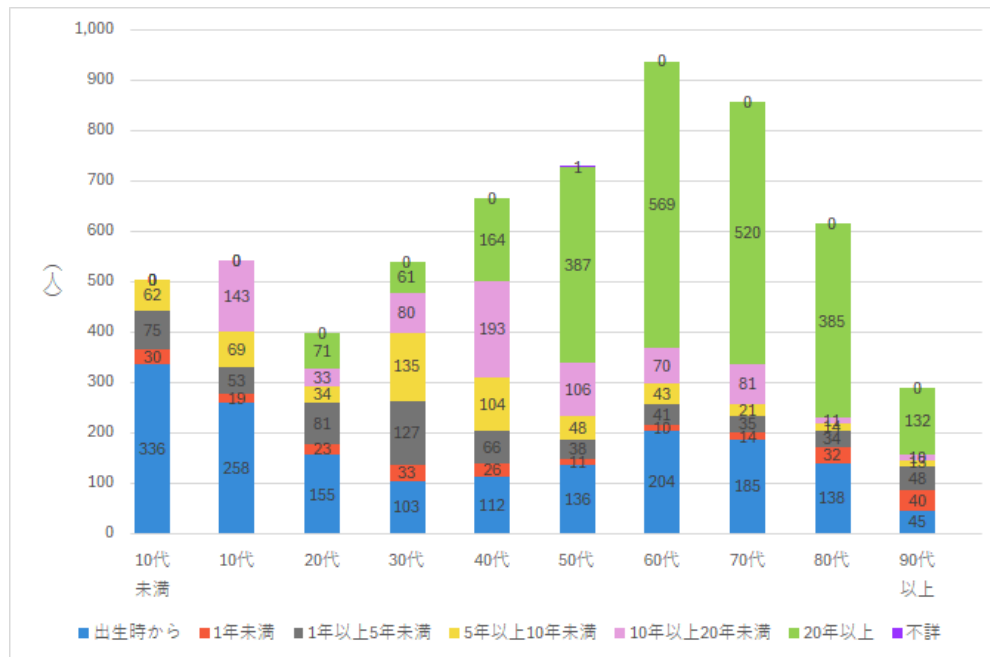


図 年代別居住期間

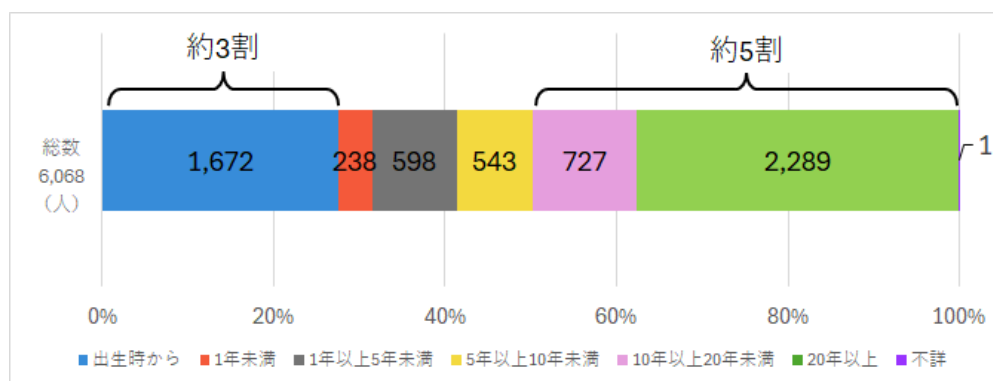


図 居住期間割合

出典：国勢調査

また、居住期間を男女別に比較してみると、男性より女性の方が出生時から常住している方は少なく、20年以上常住している方が多くなっています。

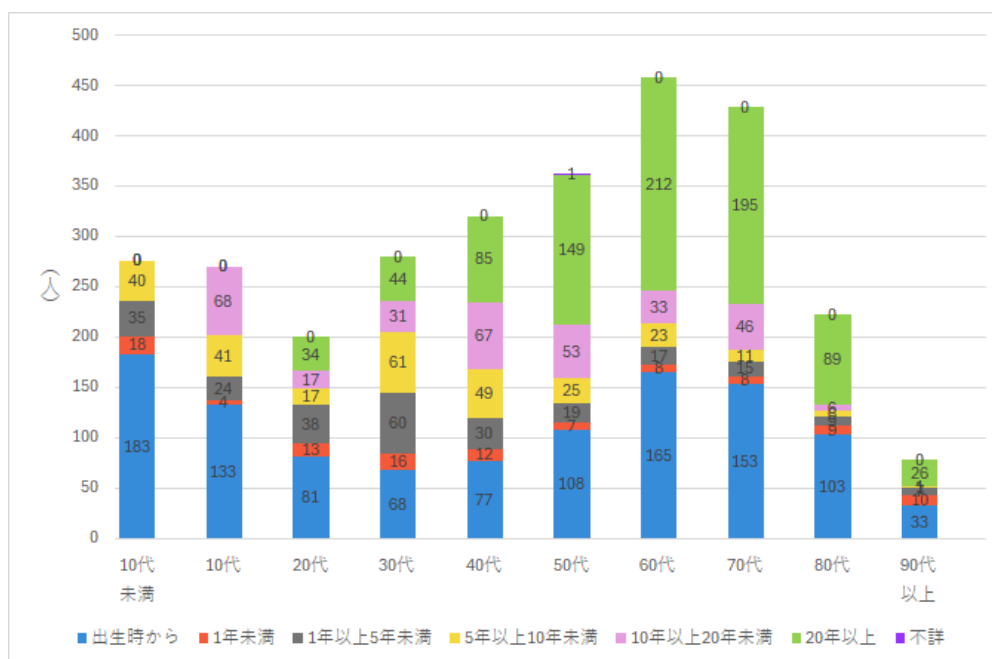


図 年代別居住期間(男)

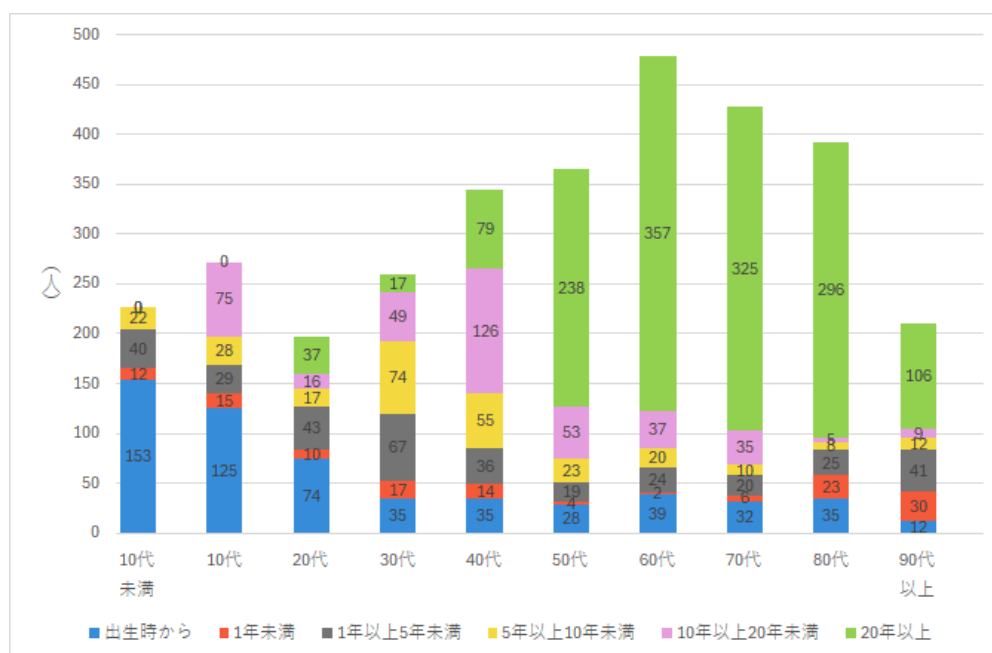


図 年代別居住期間(女)

出典：国勢調査

2. 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による推計値

(1) 総人口

阿智村の人口は、令和 2 年(2020 年)6,068 人(国勢調査)で、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和 32 年(2050 年)には 2,488 人減少して 3,580 人となり、令和 2 年(2020 年)人口から約 41%減少するものと見込まれています。なお、全国においては令和 32 年(2050 年)に約 2,100 万人(17%)の減少。長野県では約 47 万人(23%)の減少する推計となっていて、全国や長野県と比較して阿智村の減少率は高くなっています。

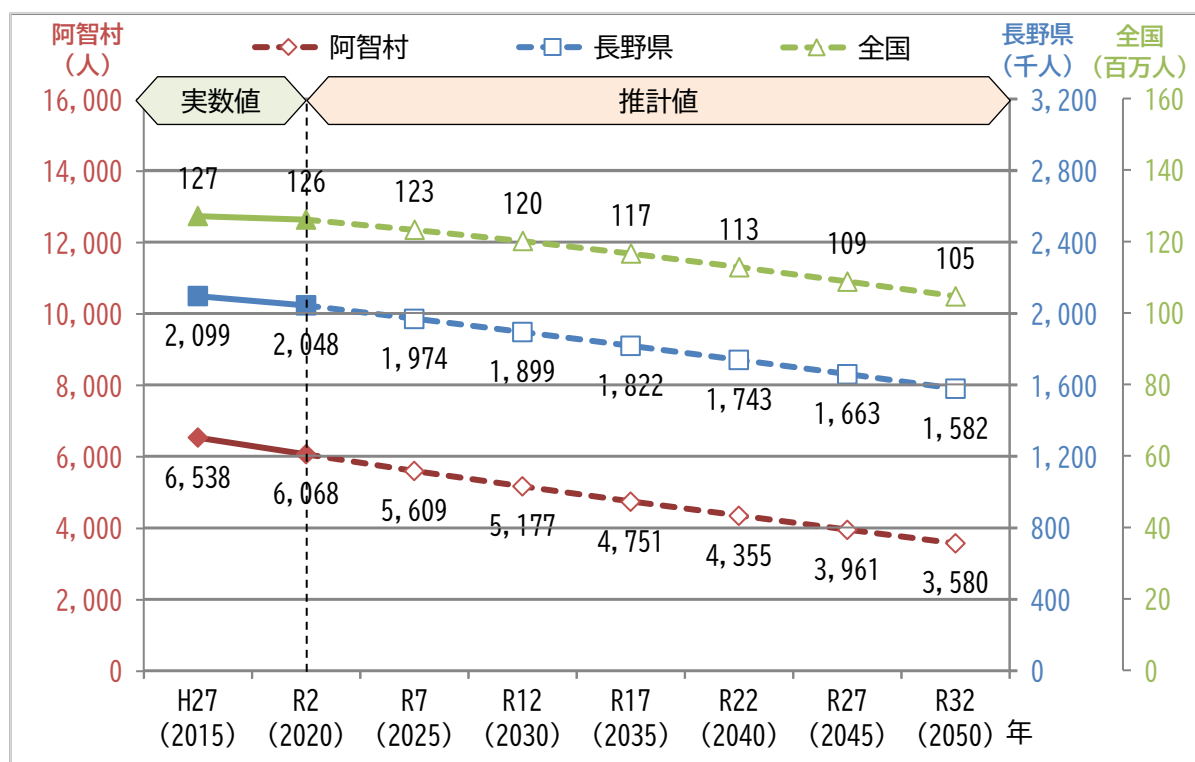


図 阿智村と長野県の人口推移と見通し

出典：(実数値) 国勢調査、(推計値) 社会保障・人口問題研究所(令和 5 年推計)

(2) 年齢3階層別人口

阿智村の年齢3階層別人口をみると、年少人口、生産年齢人口は減少傾向であり、老年人口も令和7年(2025年)には減少に転じるものと推測されてます。年齢3階層別の人口割合では、令和22年(2040年)には、老年人口の割合が生産年齢人口の割合を上回り、令和32年(2050年)には47.6%まで上昇するものと推計されています。

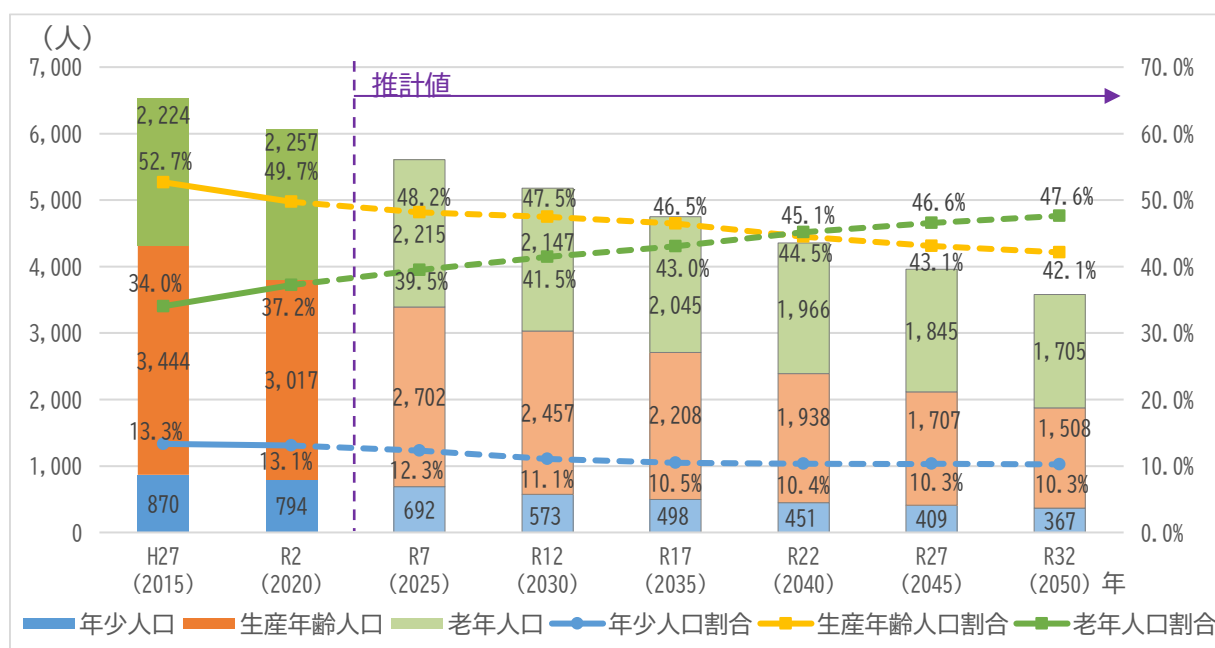


図 年齢3階層別人口の推移と見通し

出典：(実数値) 国勢調査、(推計値) 社会保障・人口問題研究所 (令和5年推計)

(3) 人口の減少段階の分析

人口減少段階は一般的に、「第1段階：老年人口の増加」、「第2段階：老年人口の維持・微減(減少率0%以上10%未満)」、「第3段階：老年人口の減少」の3つの段階を経て進行するといわれています。現在、阿智村では老年人口の微減が始まった第2段階に移行したとみられ、令和22年(2040年)から第3段階に進行するものと想定されます。

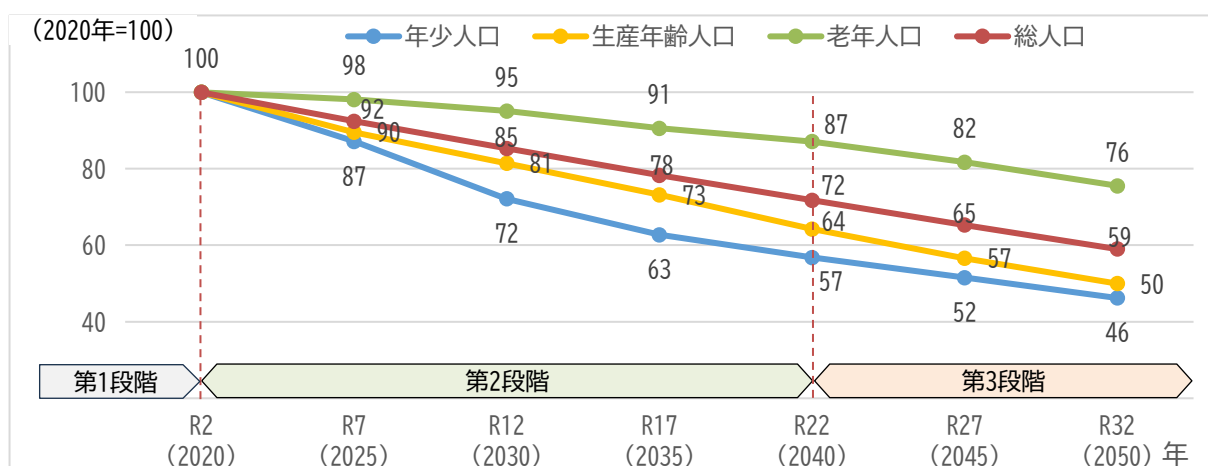


図 人口の減少段階

第3章 将来人口の推計と分析

1. めざすべき将来の方向

阿智村の将来人口の推計を行うために、以下の3つのパターンで推計します。

名称	合計特殊出生率	移動率
パターン1 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）準拠	1.67→1.78 ^{*1}	移動率の仮定値は、国勢調査の「移動人口の男女・年齢等集計」が示す直近の実績値をもとに設定。
パターン2 村独自推計1	1.26 (R3～R5 平均値)	
パターン3 村独自推計2	0.86 (R5 実績値)	

人口の推移

阿智村の人口は、令和2年(2020年)6,068人（国勢調査）で、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、令和32年(2050年)には2,488人減少して3,580人となり、令和2年(2020年)人口から約41%減少するものと見込まれています。ただし、令和5年(2023年)の出生数は19人となっており、合計特殊出生率は0.86で過去最低の水準となっています。この出生率0.86で推計した場合、

令和32年(2050年)には3,217人と社人研推計に比べ363人少なくなってしまう推計結果となりました。

めざすべき将来の方向

阿智村の社会増減は、定住政策の効果もあり転入転出に大きな変化は出ていない状況ですが、合計特殊出生率は社人研推計の指標となる1.67～1.78と本村の最新の出生率の0.86と大きく乖離しています。

そのため令和3年～令和5年までの出生率の平均値である1.26で推計した「パターン2」を村がめざすべく将来の方向として設定し、関係する施策を推進します。

*1 社人研推計の指標となる合計特殊出生率は以下のとおりです。
社人研で公表されているのはR32年(2050年)までの推計のため、R32年(2050年)以降は合計特殊出生率が一定で推移すると仮定しています。

表 社人研推計の指標となる合計特殊出生率

	R7年 (2025年)	R12年 (2030年)	R17年 (2035年)	R22年 (2040年)	R27年 (2045年)	R32年 (2050年)	R37年 (2055年)	R42年 (2060年)	R47年 (2065年)	R52年 (2070年)
合計特殊出生率	1.67	1.72	1.76	1.77	1.77	1.78	1.78	1.78	1.78	1.78

社人研推計値

仮定値

2. 将来人口推計と目標

将来人口推計は「人口動向分析・将来人口推計のための基礎データ等（内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣府地方創生推進室）」の人口推計プログラムを用いて将来人口推計の試算を行います。このプログラムではコーホート要因法による推計をベースとして、出生率等を加味した形での将来人口推計が可能です。

推計は、先に示した3つのパターンで行いました。

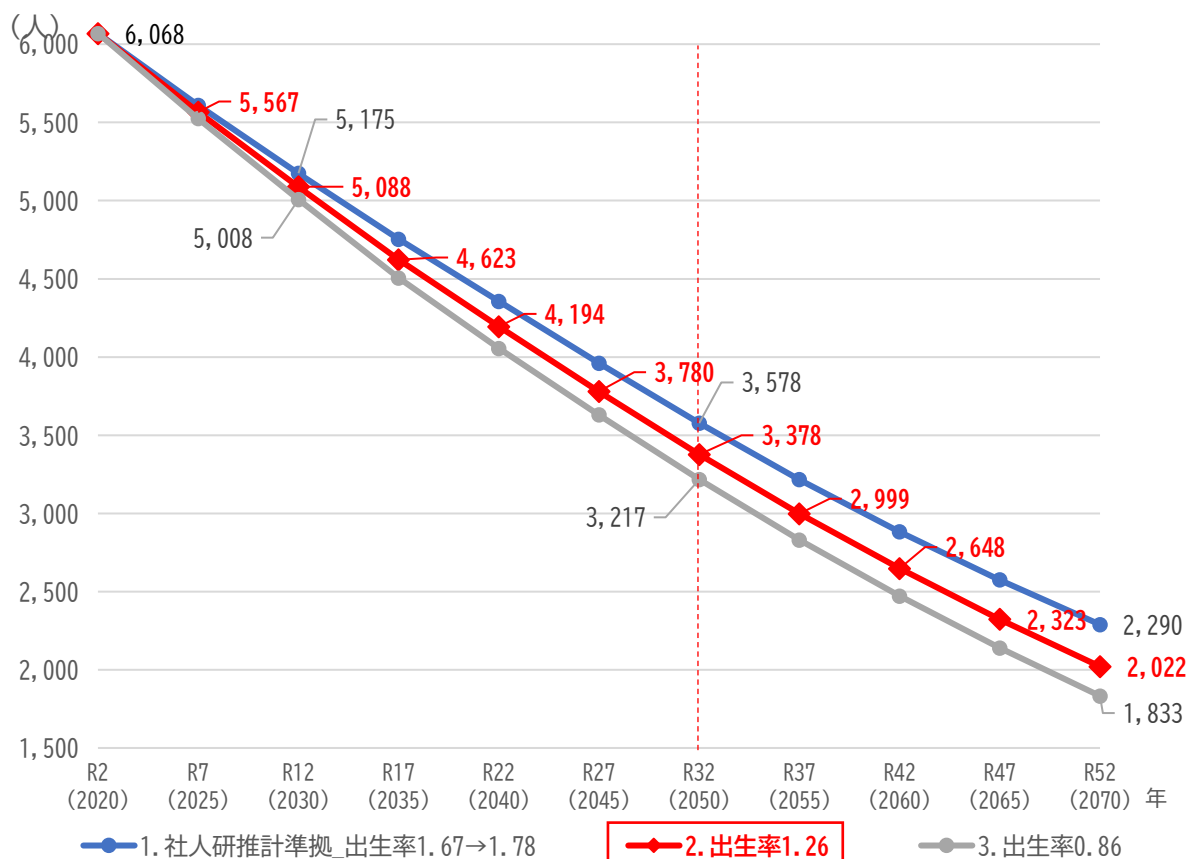


図 将来人口推計結果

出典：社人研推計は社会保障・人口問題研究所

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）推計によると、令和32年（2050年）時点での人口は約3,600人となり、令和2年（2020年）比で約59%の人口となることが推計されています。

ただし、社人研推計は令和2年（2020年）の国勢調査に基づいて推計されているものであり、阿智村の合計特殊出生率が引き続き1.7前後で推移していくことが前提条件となっています。第2章で記載したとおり、令和2年（2020年）以降の阿智村の合計特殊出生率が急激に減少（令和5年実数値：0.86）していることを踏まえると、今後の人口は社人研推計を下回っていく可能性が高いと考えられます。

表 将来人口推計結果

将来人口推計パターン	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)	R37 (2055)	R42 (2060)	R47 (2065)	R52 (2070)
実数値 (R2)	6,068	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1. 社人研推計準拠_出生率1.67→1.78	-	5,610	5,175	4,754	4,357	3,961	3,578	3,216	2,883	2,576	2,290
2. 出生率1.26	-	5,567	5,088	4,623	4,194	3,780	3,378	2,999	2,648	2,323	2,022
3. 出生率0.86	-	5,525	5,008	4,506	4,055	3,630	3,217	2,831	2,472	2,140	1,833

出典：社人研推計は社会保障・人口問題研究所

3. 将来人口推計に基づく出生数の推移

人口推計プログラムで試算した将来人口推計に基づき 5 年毎の年平均出生数（※社会動態は考慮していない）を算出した場合、平成 28 年(2016 年)から令和 2 年(2020 年)にかけての平均出生数は 43.2 人（概算）となります。本計画の目標値である出生率 1.26 で推移した場合、令和 28 年(2046 年)から令和 32 年(2050 年)にかけての平均出生数は 13.2 人（概算）となり、令和 2 年(2020 年)からの 30 年で 69.4%減少することになります。

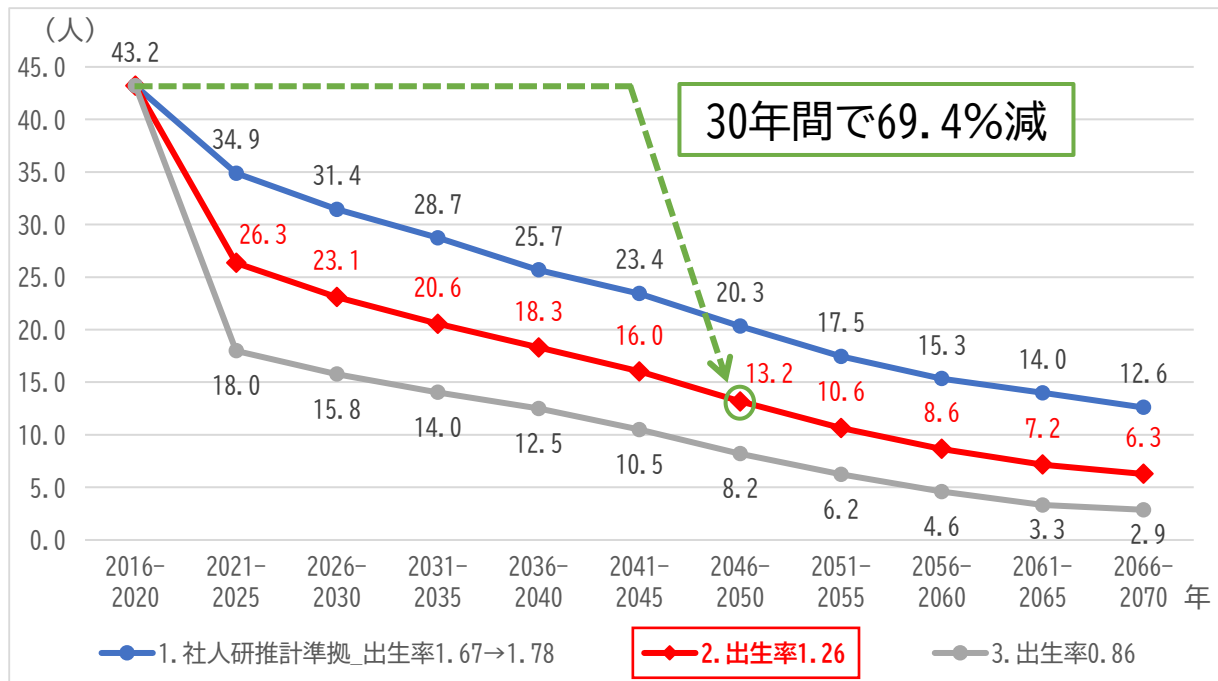


図 年間平均出生数の推移 (人)

出典：社人研推計は社会保障・人口問題研究所

4. 将来人口推計に基づく人口ピラミッドの変化(2020年～2050年比較)

本計画の目標値(合計特殊出生率:1.26)で推移した場合、令和2年(2020年)から令和32年(2050年)の30年間で阿智村の人口は2,690人減少(-44.3%)となる見込みです。年代別の減少率では、特に10代未満(-70.2%)の減少が最も大きく、次いで10代(-65.0%)、20代(-63.3%)と続いており、特に若年層の減少率が高いことが分かります。

また、労働者のメインとなる20代から60代の人口でも1,672人(-51.2%)減少する見込みとなり、これまで以上に労働者の確保が難しくなっていくことが予想されます。

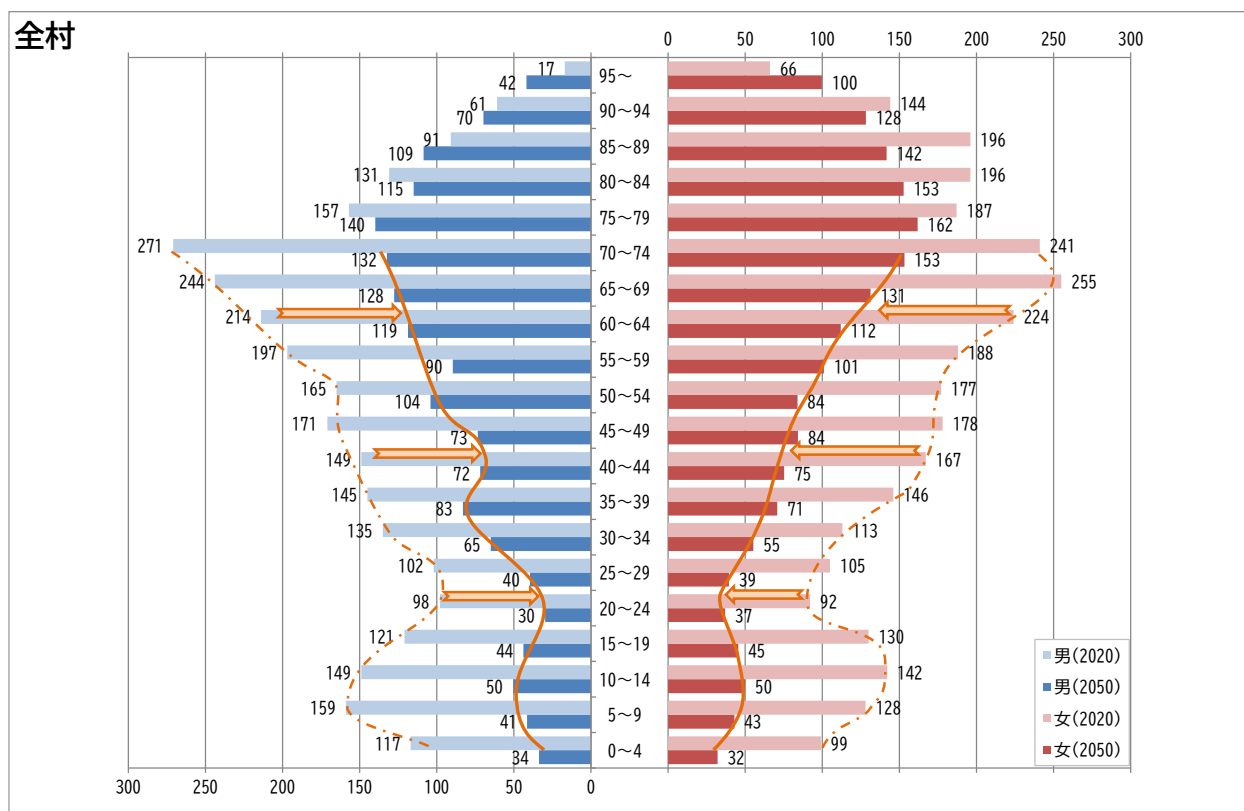


図 5歳階級別人口ピラミッド(人)

表 年代別将来人口推移(人)

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	全体
2020年	503	542	397	539	665	727	937	856	614	288	6,068
2050年	150	190	146	274	305	379	490	587	518	340	3,378
増減数	-353	-352	-251	-265	-360	-348	-447	-269	-96	52	-2,690
増減率	-70.2%	-65.0%	-63.3%	-49.1%	-54.2%	-47.9%	-47.7%	-31.4%	-15.6%	17.9%	-44.3%

5. 自治会別人口

(1) 自治会別人口の推計

総人口の推計と同様の手法を用いて、本計画の目標値（合計特殊出生率：1.26）を各自治会に当てはめると以下の図のとおりとなり、すべての自治会で人口が減少していくことがわかります。

なお、令和 2 年(2020 年)と令和 32 年(2050 年)を比較した場合の減少率は、浪合（-47.9%）や駒場（-47.7%）、清内路（47.7%）が特に高くなっています。

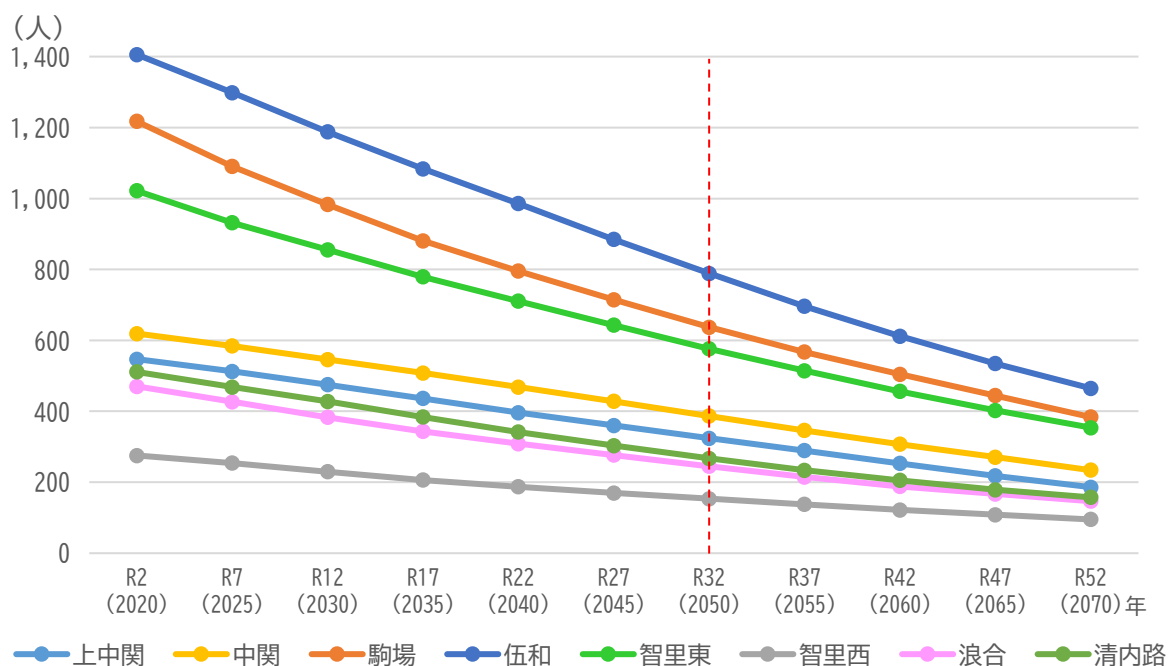


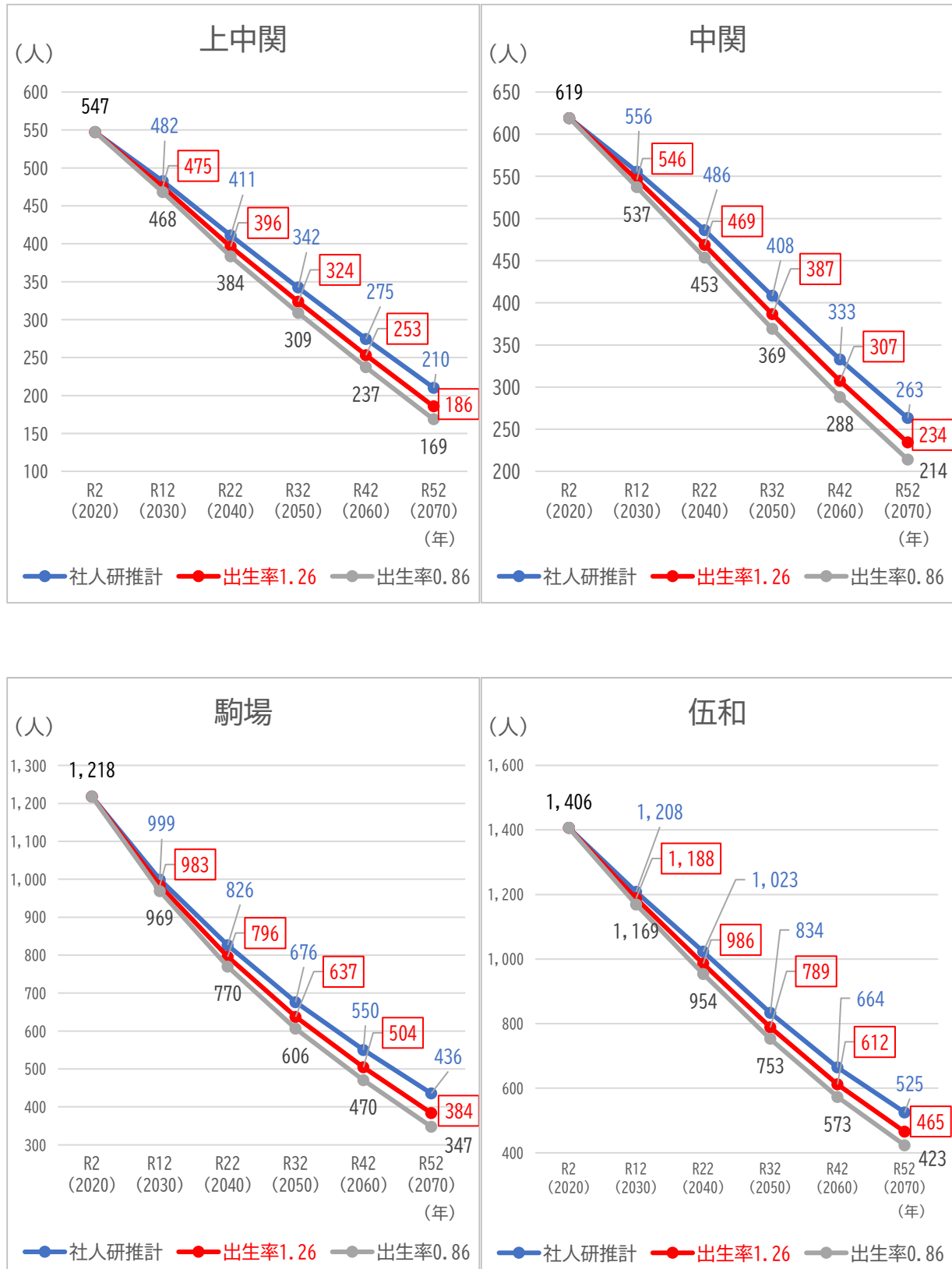
図 自治会別将来人口推計結果 (人)

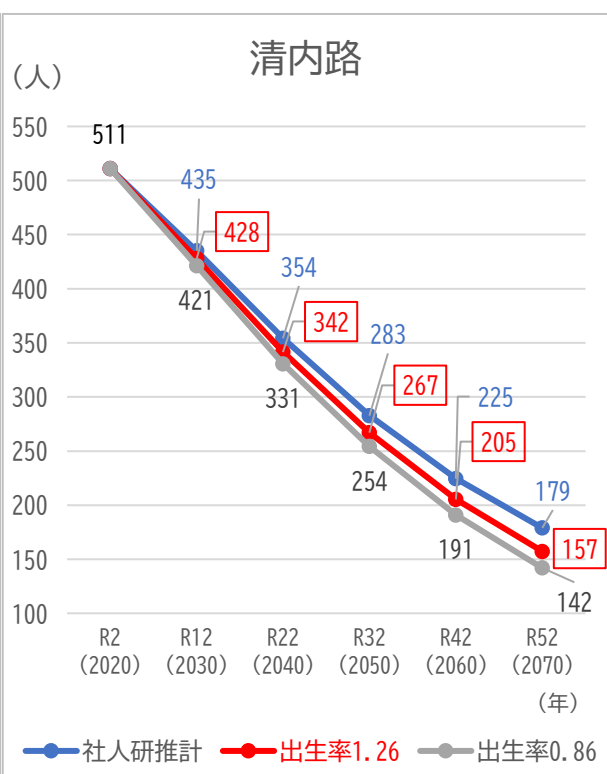
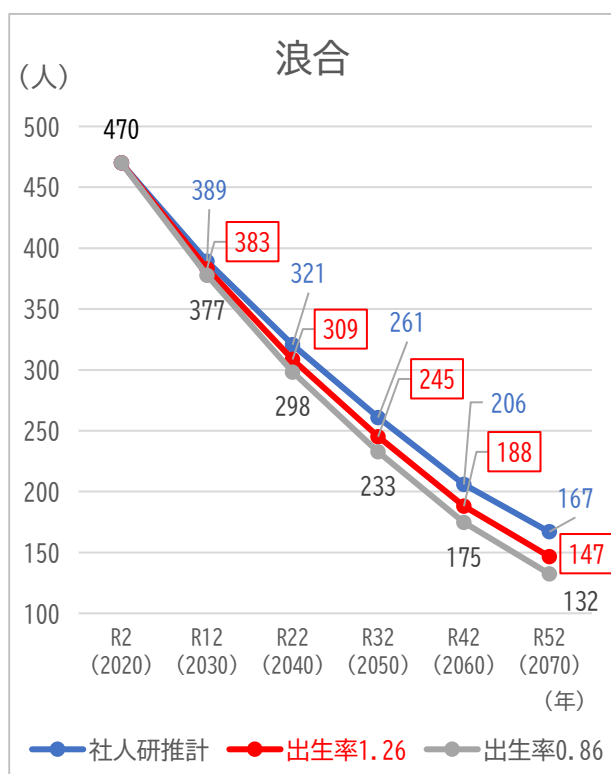
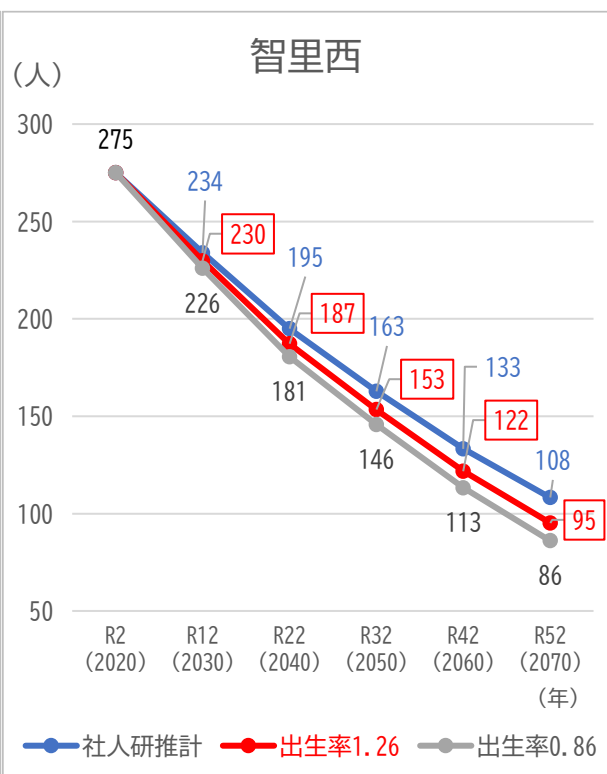
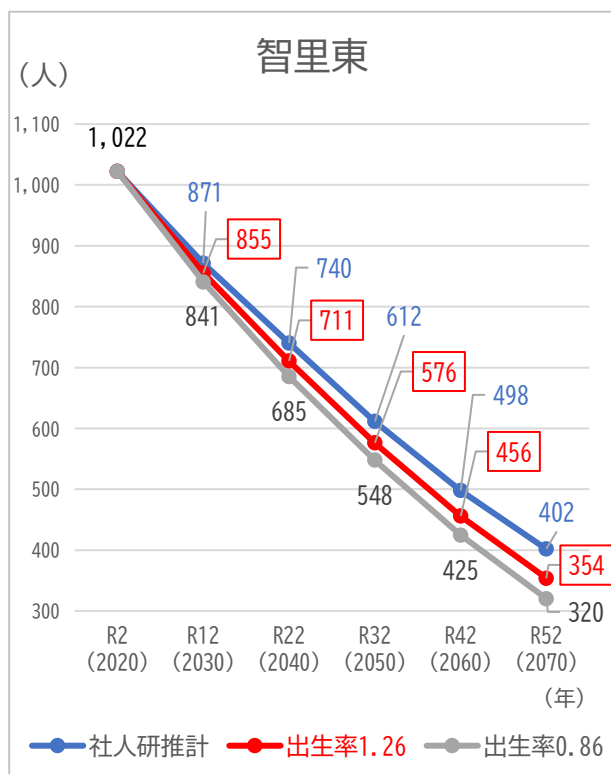
表 自治会別将来人口の推移 (人)

	上中関	中関	駒場	伍和	智里東	智里西	浪合	清内路	村全体
2020年	547	619	1,218	1,406	1,022	275	470	511	6,068
2050年	324	387	637	789	576	153	245	267	3,378
増減数	-223	-232	-581	-617	-446	-122	-225	-244	-2,690
増減率	-40.8%	-37.5%	-47.7%	-43.9%	-43.6%	-44.4%	-47.9%	-47.7%	-44.3%

(2) 各自治会における将来人口推計パターン

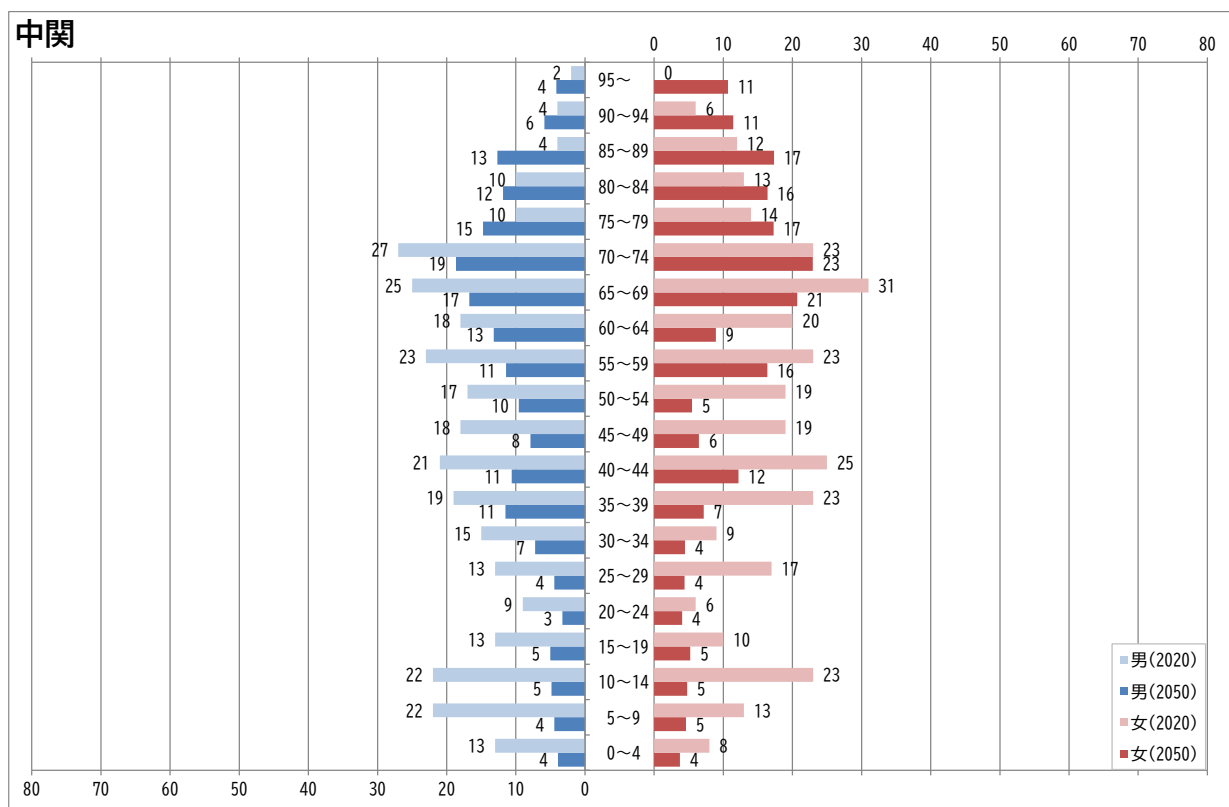
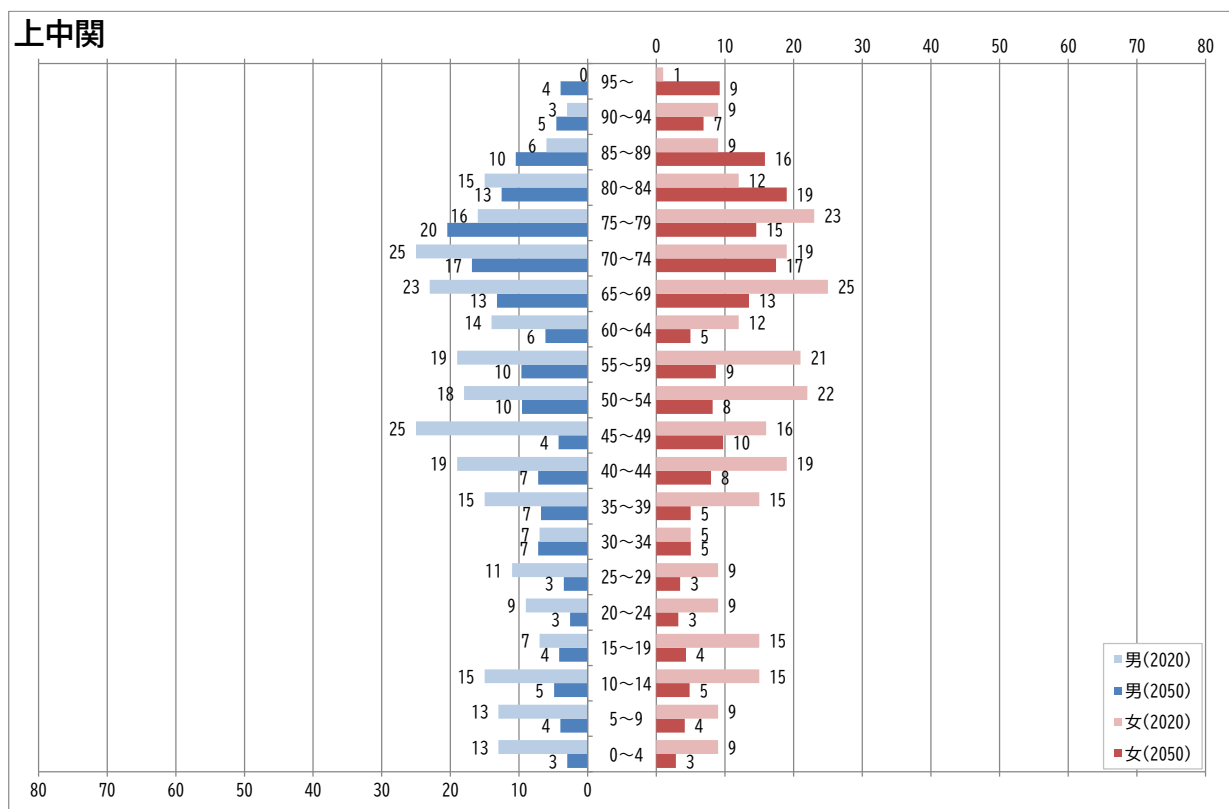
今回試算した将来人口推計パターンを各自治会に当てはめた結果が次のとおりとなります。



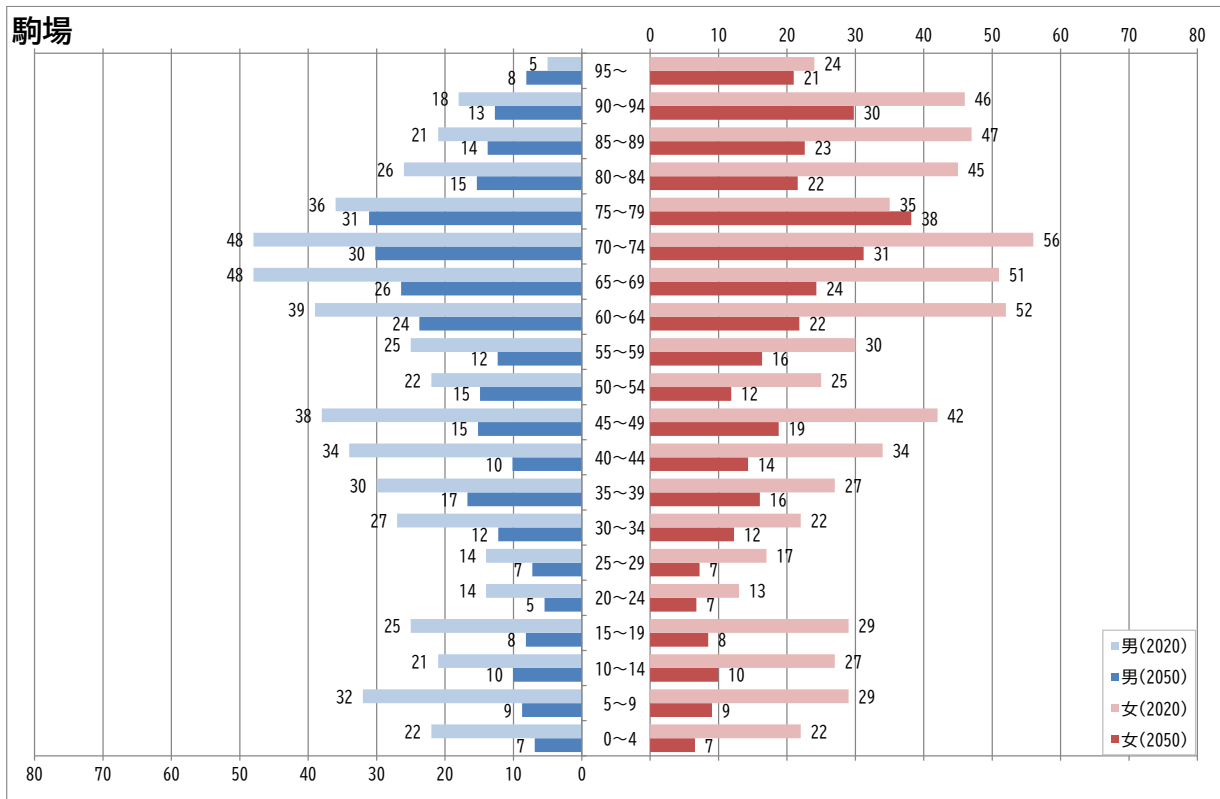


(3) 自治会別人口ピラミッド

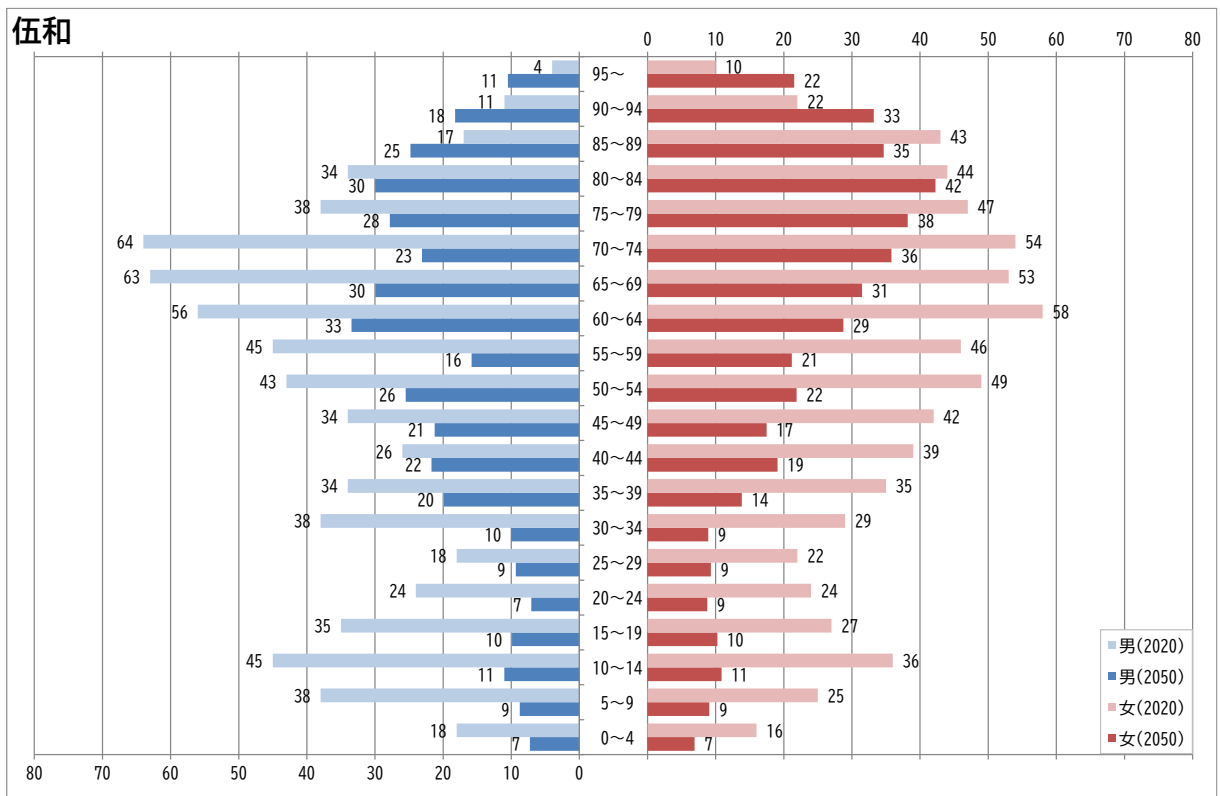
本計画の目標で推移した場合の各自治体の人口ピラミッド（令和 2 年(2020 年)実数値
及び令和 32 年(2050 年)推計値）を以下に提示します。



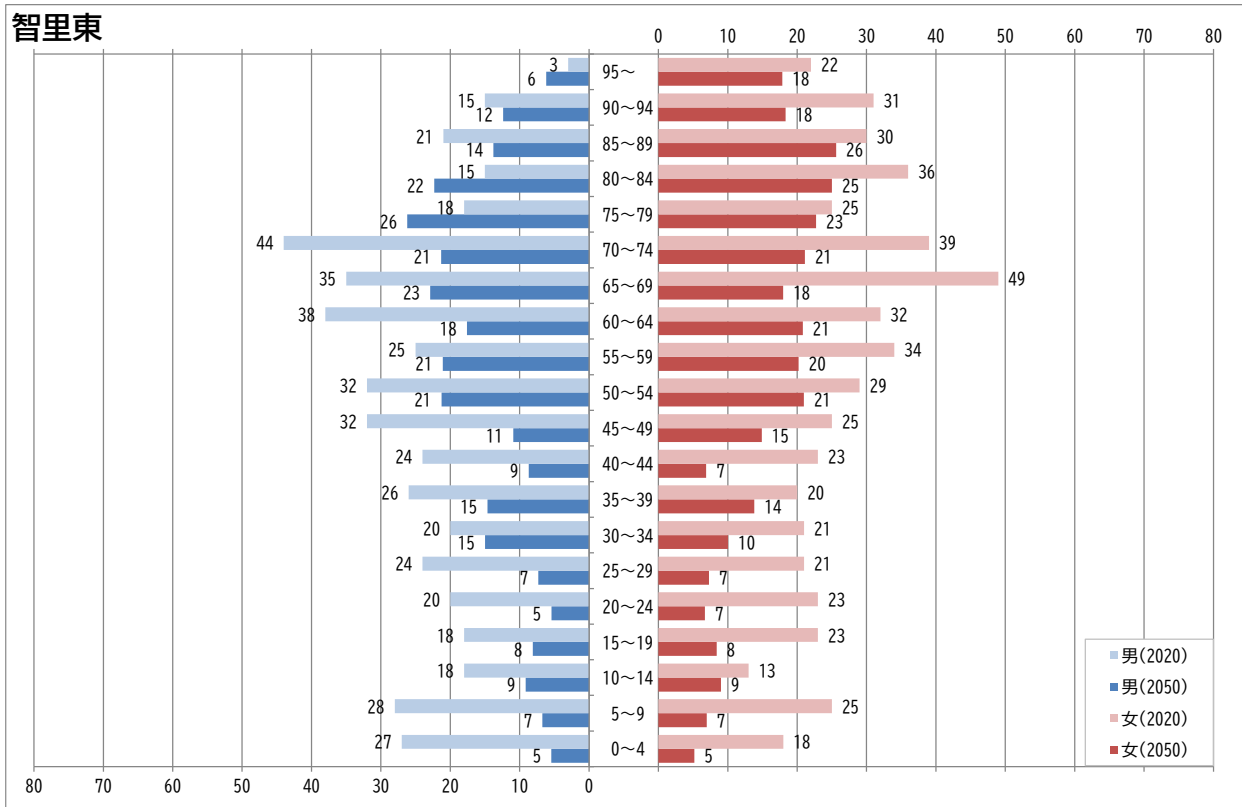
駒場



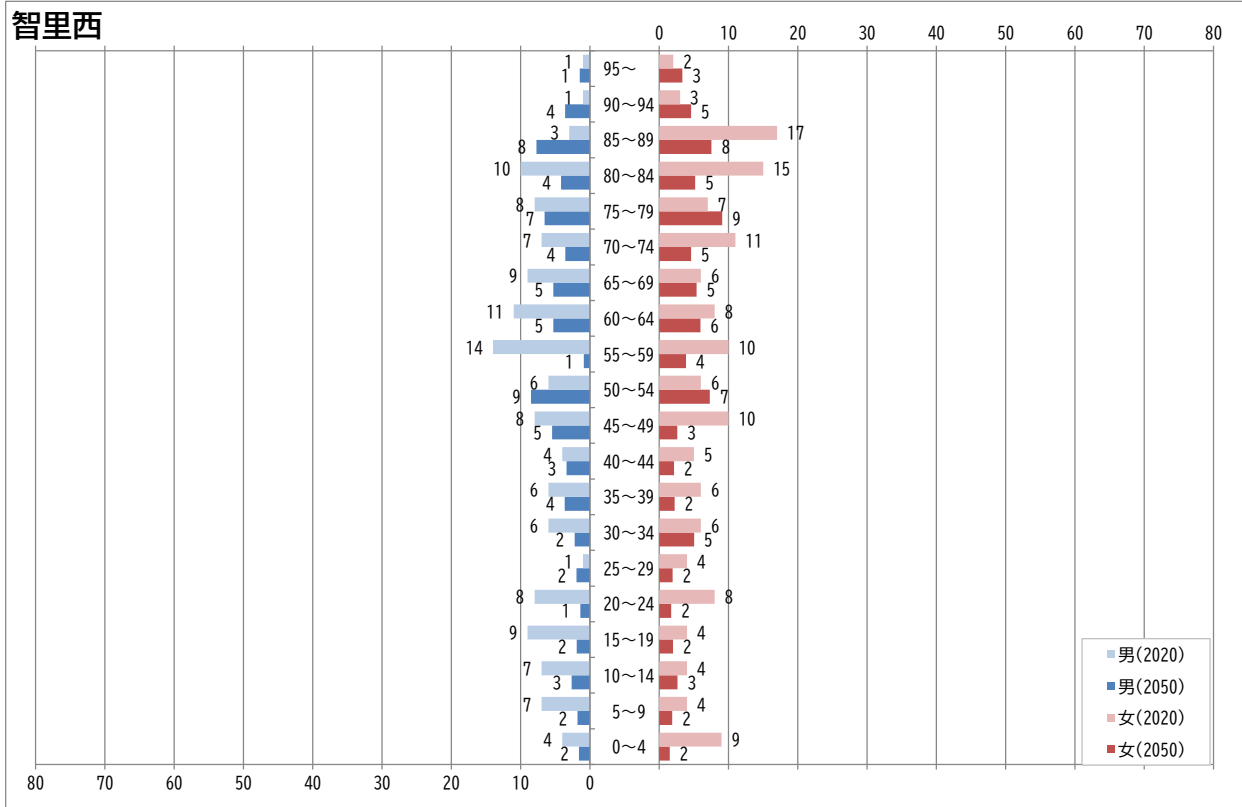
伍和

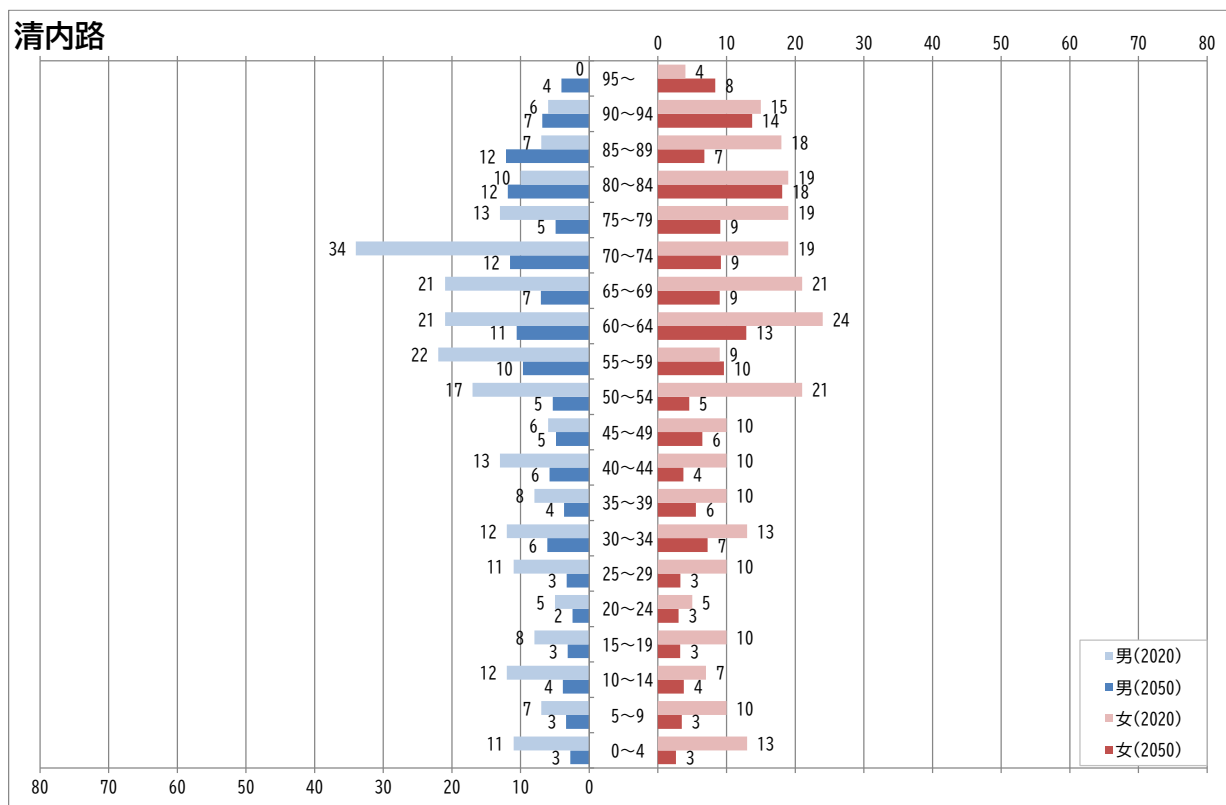
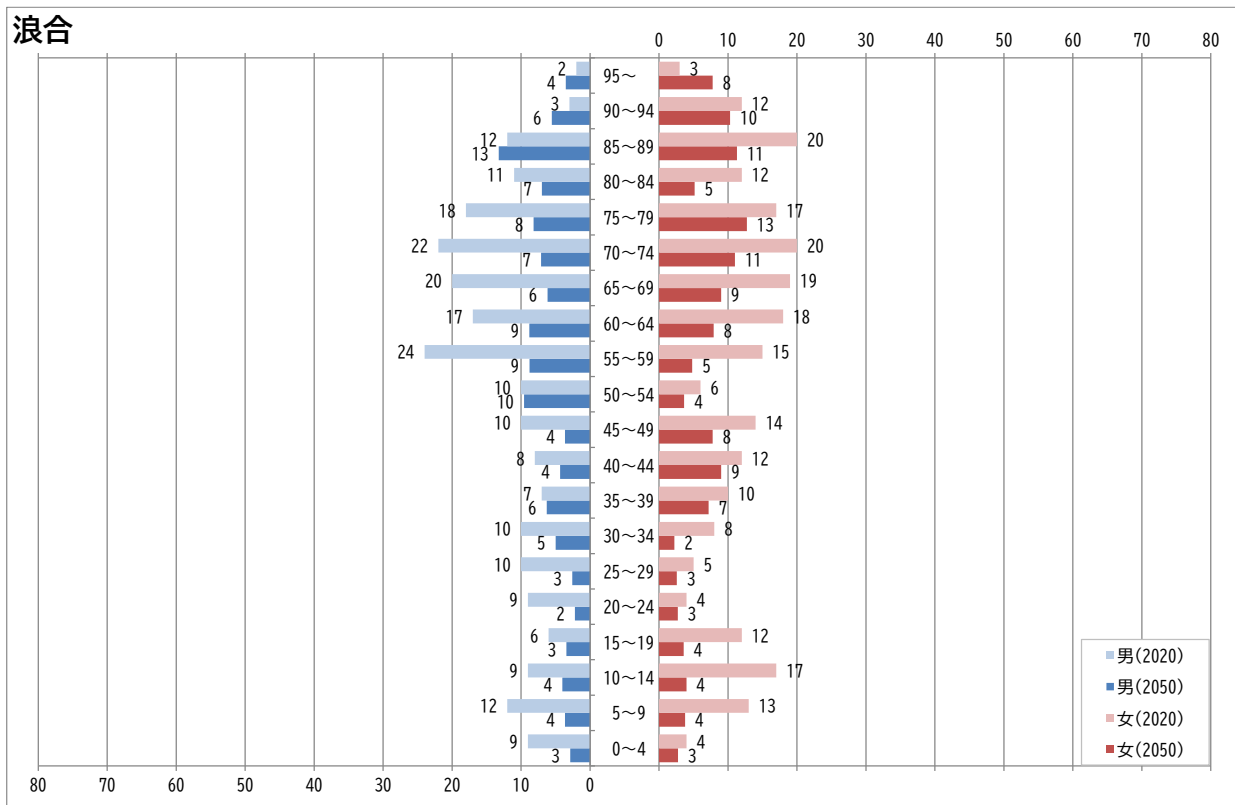


智里東



智里西





第Ⅱ部 総合戦略

第 1 章 策定にあたって

1. 目的と背景

「阿智村まち・ひと・しごと創生総合戦略」は「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、阿智村人口ビジョンをもとにして、今後 5 か年の基本目標や施策をまとめるものです。

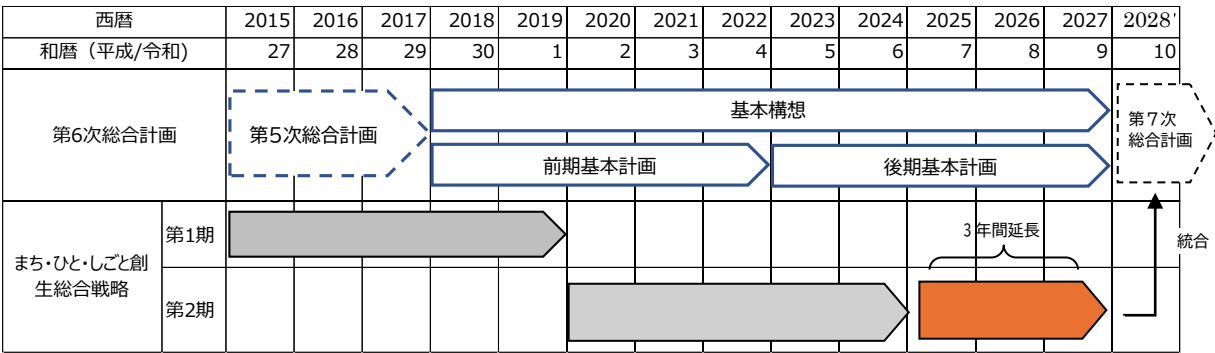
平成 26 年（2014 年）11 月に制定された「まち・ひと・しごと創生法」では、「急速に進む少子高齢化の進展に対応し、日本全体、特に地方の人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正する。それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことが喫緊の課題である」としています。

本村においても、平成 27 年（2015 年）3 月に「阿智村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、「しごと」、「ひとのながれ」、「結婚・子育ての切れ目ない支援」、「まちづくり」の 4 つの分野において計画に位置付けられた各施策を展開してきました。

今回、「阿智村まち・ひと・しごと創生総合戦略」については、2027 年度（令和 10 年度）に策定する第 7 次総合計画に統合する計画で、令和 10 年度（2027 年度）までの間は、第 2 期計画を 3 年間延長し、必要な改定を加え、第 6 次総合計画との整合性を図りながら、「住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり」の実現をめざします。

2. 位置付け

阿智村第 6 次総合計画は平成 30 年度（2018 年度）から令和 9 年度（2027 年度）までの 10 年間であり、この「第 2 期まち・ひと・しごと創生総合戦略」は前期基本計画期間と後期基本計画期間にまたがっています。第 2 期計画の延長においては第 6 次総合計画を踏まえながら、第 7 次総合計画に統合するものとします。



3. 計画の期間

令和 2 年度（2020 年度）から令和 9 年度（2027 年度）までの 8 年間

第2章 阿智村のめざす姿

1. 阿智村のめざす姿

阿智村の人口は社人研推計によると、令和32年（2050年）には令和2年（2020年）の6,068人に比べ約59%（3,578人）まで、また、直近の出生率（0.86【令和5年】）で推計した場合は、約53%（3,217人）まで減少することが見込まれています。地区の人口減少は、住みやすさに少なからぬ影響をもたらします。村内各地域の保育園、学校、各種機能を維持すること、農業、景観保全、地域のお役など、人口はあらゆる場面で生活のあり方、地域のあり方を決める大きな要素です。そこで本計画では令和32年（2050年）に、令和2年（2020年）人口6,068人の約56%（約3,400人）を維持することをめざすこととしました。

平成24年（2012年）から始まった「スタービレッジ阿智」の取り組みは阿智村の知名度を一気に向上させました。

しかし、令和元年（2019年）に発生した新型コロナウイルス感染症は、令和2年（2020年）に入ってから世界中に感染が拡大し、令和4年（2022年）4月までに感染者は世界全体で累計5億人を超え、世界的流行（パンデミック）をもたらしました。国内においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、日常は大きく変化してしまいましたが、令和5年（2023年）5月8日から感染症法上の位置付けが5類感染症になり、行動制限などが緩和された事により、日常を取り戻しつつあります。しかし、コロナ禍では、将来不安の高まりや、出会いの場が失われたことなどから結婚が減少し、少子化に拍車がかかってしまいました。

住み続けたい、住み続けられる村であることをめざし、「暮らす、生きる。阿智家族」をスローガンに定住促進に取り組む村づくりをすすめていきます。

【阿智村第6次総合計画 基本構想における将来像】

暮らす、生きる。阿智家族

（住民一人ひとりの人生の質を高められる、持続可能な村づくり）

阿智家族として語れる夢があること、支えあえること、分かち合う場所があること明日を楽しみに眠れること。

阿智に暮らすということは、住民一人ひとりの人生の質を高められる持続可能な村づくりにより村ごと大きな家族になること。

日本一の星降る郷であるだけでなく、全てのひとの心のふるさととして人も星も輝く村をめざします。

2. 基本的な視点

【視点1】誰もが暮らしやすい地域

住んでいる私達がこの村に住んで良かったと思える村にすることが何より重要です。結果的にそうした地域に移住者が集まってくると考えます。

【視点2】若者が暮らしやすい地域-持続可能な阿智村

第6次総合計画策定に先立ち、村内在住の20代、30代の方を対象に「若者まちづくり懇談会」、阿智中学校3年生を対象に「村長さんと語る会」を実施しました。

「若者まちづくり懇談会」では、「若者が住みたくなる住宅」、「自然が残る村づくり」、「公共交通の充実」、「遊休農地の活用」、「若者が集える場所（居酒屋、カフェ、イベント、BBQ）」、「地域の仕事」など多岐にわたる意見が出されました。

「村長さんと語る会」では、村の良いところとして、星や景色のきれいさや自然の豊かさなどが挙げられ、良いところを生かした村の活性化策について多くの意見が出されています。

また、第6次総合計画住民アンケート結果において、村に愛着を持っている人の割合は若者世代でも高くなっており、持続可能なまちづくりを推進していくうえで、若者が暮らしやすい地域づくりが必要といえます。そのため、地域コミュニティの中で若者が気楽に参画できる機会や場づくりにより、若者が持っている地域に対する思いをまちづくりに生かしていく仕組みづくりが必要であるといえます。

【視点3】集落の維持

集落は生活の基盤となる単位です。集落単位、自治会単位で地域の実状に即した取り組みを進め、集落を維持することが必要です。

【視点4】地域内経済循環の仕組み構築

スタービレッジの取り組みにより、阿智村を訪れる観光客が増えています。観光客がこの地に滞在し、村内各所を訪れる仕組みをつくり、農林業、商工業などへ効果を波及させることが必要です。地域資源を活かした産業を掘り起こし、地域課題の解決を地域の仕事としていくことで、地域内経済循環をつくりだします。

【視点5】自治と協働の村づくり

地域をつくるのはここに暮らす住民の皆さんの自治と協働の力にほかなりません。その力が十分に発揮できるよう村は必要な取り組みを進めます。

暮らす、生きる。阿智家族

若者が暮らしやすい地域 -持続可能な阿智村

誰もが暮らしやすい地域



3. SDGs 達成に向けた取組について

SDGs は、「Sustainable Development Goals」の略で、平成 27 年（2015 年）9 月の国連サミットで採択された 令和 12 年（2030 年）までの長期的な開発の指針として採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中核をなす「持続可能な開発目標」であり、先進国を含む国際社会共通の目標です。

平成 27 年（2015 年）までを計画期間としていた発展途上国向けの開発目標「MDGs（ミレニアム開発目標）」の後継として採択された SDGs は、発展途上国のみならず先進国を含む国際社会全体の開発目標として、持続可能な世界を実現するための包括的な 17 の目標及び細分化された 169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」社会の実現をめざし、経済・社会・環境をめぐる広範囲な課題に対する統合的な取組が示されています。

国においては、内閣総理大臣を本部長とする「SDGs 推進本部」が設置され、平成 28 年（2016 年）12 月の会合において「SDGs 実施指針」を策定し、経済、社会、環境の分野における 8 つの優先課題と具体的施策を盛り込むとともに、地方公共団体の役割の重要性が示されています。また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、地方公共団体における SDGs の取組推進が位置付けられるなど、積極的な取組が期待されています。

本村の総合戦略で取り組む方向性は、スケールこそ異なるものの、国際社会全体の開発目標である SDGs の理念、17 の目標とそのめざすべき方向性は同じであり、本戦略の推進を図ることが SDGs の目標達成にも資するものと考えています。そのため、本村においても住民をはじめ多様な主体と連携・協働しながら、計画的なまちづくりを進めることで、SDGs の目標達成につなげていきます。（SDGs の 17 のゴール（目標）について、巻末に資料を掲載しています）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



第3章 基本目標と基本目標達成のための施策

■政策・施策の体系図

基本目標1 地域産業の育成により働く場を創出する 【しごと】		
施策 1-1	地域資源を活かした観光の推進	1-1-1 観光を基軸とした地域づくり 1-1-2 「日本一の星空」スタービレッジ事業の推進 1-1-3 昼神温泉の魅力向上と発信 1-1-4 村内各地域の資源を活かした観光連携 1-1-5 環境に優しい観光地運営 1-1-6 インバウンドの推進
施策 1-2	次世代につなぐ農業	1-2-1 持続的な農業生産環境の形成 1-2-2 阿智の特性を生かした農産品のブランド化と販路の確保
施策 1-3	地域のしごと	1-3-1 地域内経済循環の構築 1-3-2 将来につながる新たな産業基盤の形成 1-3-3 村内産業の育成としごとづくり
基本目標2 定住人口の維持や人口減少の緩和のため居住等の環境を充実させる 【ひとのながれ】		
施策 2-1	定住促進	2-1-1 定住促進に向けた体制づくり 2-1-2 定住促進のため居住環境充実に向けた支援 2-1-3 空き家の適正管理と活用促進 2-1-4 村営住宅の整備と運営 2-1-5 ふるさと交流事業の推進 2-1-6 地域おこし協力隊の継続的な確保
基本目標3 若者が希望をもって結婚、子育てできる村をめざす 【結婚・子育ての切れ目ない支援】		
施策 3-1	結婚しやすい環境づくり	3-1-1 結婚支援の推進
施策 3-2	子育てしやすい環境づくり	3-2-1 子育て支援の推進 3-2-2 保育環境の維持・充実 3-2-3 学童保育の推進 3-2-4 学習機会と情報の提供
施策 3-3	地域に根ざした質の高い教育の推進	3-3-1 地域に根ざした学校教育の推進 3-3-2 阿智高校の存続と発展
基本目標4 各地域の特性を生かし、安心安全なふるさとづくりをめざす 【まちづくり】		
施策 4-1	安全・安心な暮らしを営める集落環境づくり	4-1-1 公共交通利用環境の向上 4-1-2 災害に強い地域づくり 4-1-3 生活基盤の整備 4-1-4 健康づくりの推進 4-1-5 安心して暮らせる医療・福祉環境の構築
施策 4-2	循環型社会の構築	4-2-1 自然環境・生活環境の保全 4-2-2 森林整備と活用 4-2-3 再生可能エネルギーの導入とエネルギー自給
施策 4-3	自治と協働の村づくり	4-3-1 全村博物館構想の推進 4-3-2 地域づくりの推進 4-3-3 社会教育の推進

1. しごと

基本目標 1 地域産業の育成により働く場を創出する

(年度)

数値目標	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
農業産出額	H27	8.8 億円	9 億円	9.3 億円	9.5 億円
製造品出荷額	H30	170 億円	180 億円	231 億円	233 億円
商品販売額	H26	40 億円	42 億円	45 億円	47 億円
観光消費額	R 元	57 億円	57 億円	52 億円	57 億円

【基本的方向】

村外で暮らす阿智村出身者の中には「阿智村に戻りたいが、仕事がないから戻れない」と考えている人が少なくありません。一方、近年の傾向として、農山村のコミュニティの中で地域に関わる仕事がしたい、地域社会の役に立ちたいと考えている若者が増えています。そうした中では、既存産業の発展とともに農山村の特長を活かした取組みをすることが重要です。

第1期では、観光面において「日本一の星空」を活用した観光による地域づくりなどを通じて地域のブランディングなどに取り組み、多くの誘客に繋げることができました。今後は、昼神温泉将来構想 2027 に沿った取り組みなどにより、引き続き阿智村の地域資源を活かした取組みを推進します。

農業分野においては、新規就農者に対する支援を行うとともに、村の特性を生かした農産品のブランド化や遊休農地の発生防止に向けて新たな品目や法人化、滞在型観光を意識した観光農園等についても研究を行い、次世代に農業をつないでいくための取組みを推進します。

商業・工業分野では、関係機関との連携強化により村内消費の拡大、販路開拓のほか、創業支援や雇用の創出の取組み等を進めます。また、南信州全体で取り組む研究開発を支援することで、新産業の育成をめざします。

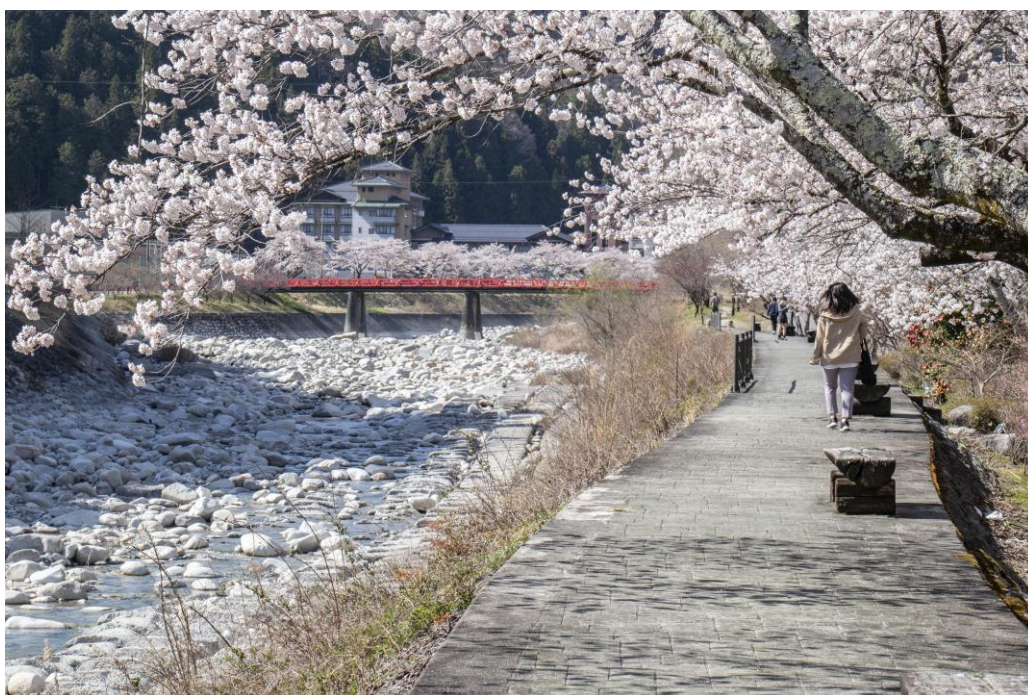
関連する
SDGs の目標



施 策	KPI※1
1-1-1 観光を基軸とした地域づくり ① DMO※2 登録した(株)阿智昼神観光局を中心として、観光による地域づくりを推進します。	・ スタービレッジ事業 来場者数 ・ 観光入り込み客
1-1-2 「日本一の星空」スタービレッジ事業の推進 ① 環境省認定の「日本一の星空」に着目した地域ブランドの構築と環境整備に取り組みます。 ② 星に関連する特産品の開発を進めます。	
1-1-3 昼神温泉の魅力向上と発信 ① 「昼神温泉」ブランドの向上と観光客誘致の強化を図ります。 ② 昼神温泉リニア新時代構想に沿った魅力ある温泉郷づくりを進めます。 ③ 前衛的なデータ分析・活用と情報発信に取り組みます。	
1-1-4 村内各地域の資源を活かした観光連携 ① 地域の特色（歴史・文化等）や村内産業を資源と捉え、観光を軸とした連携の強化を図ります。 ② 阿智村ならではの魅力や体験の提供により特色ある着地型観光を推進します。 ③ 産業振興公社と連携し、農観連携の推進とし仕組みづくりに取り組みます。	
1-1-5 環境に優しい観光地運営 ① 阿智村の観光資源である、美しい自然と環境を守るため、環境に優しい観光地運営に取り組みます。	
1-1-6 インバウンドの推進 ① 村内観光インフォメーションの多言語化による環境整備に取り組みます。 ② 日本一の星空事業のグローバル化の推進に取り組みます。 ③ インバウンド向けプロモーションによる誘客事業に取り組みます。	

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
スタービレッジ事業来場者数	R元	150,572人	155,000人	105,856人	155,000人
観光入り込み客	R元	126万人	126万人	101万人	126万人



春の屋神温泉郷

※1 KPI：「重要業績評価指標」施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう

※2 DMO：「Destination Management Organization」の頭文字の略。観光地経営の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を実施するための調整機能を備えた法人（観光地域づくり法人）

関 連 す る
SDGs の目標



施 策	KPI
1-2-1 持続的な農業生産環境の形成 ① 担い手の育成をＪＡ、産業振興公社、行政が連携して推進します。 ② 里親やＪＡが育成する研修生を確保し、農業従事者を維持します。 ③ 帰農者への研修などを通じて生きがいとして取り組む農家を育成します。 ④ 農家アドバイザーを設置し、熟練農業者による若手農業者への技術の普及を行います。 ⑤ 担い手への農地利用集積・集約を進めるとともに、新規就農者への農地のあっせんを行います。 ⑥ 遊休農地の発生防止に努めます。ぶどう・ソバ・大豆など新たな品目や、担い手の農業法人化を研究します。 ⑦ スマート農業技術や林業や観光など他産業との連携について研究し農業の振興を図ります。	・村内の農業研修者数 ・新規就農者数 ・遊休農地解消面積
1-2-2 阿智の特性を生かした農産品のブランド化と販路の確保 ① 有機活用農業を推進し、根幹となる畜産業の支援により、有機いきいき堆肥の原料確保に取り組みます。 ② 認証農産物のブランド化に取り組み、有利販売を図ります。 ③ 村の主要品目の販路開拓を推進します。 ④ 昼神温泉をはじめとする地域内での販路拡大と地消地産の仕組みづくりを推進します。	

(年度)

KPI	基準値		目標値 (R2～R6)	実績数値 (R2～R5)	新目標値 (R2～R9)
村内の農業研修者数	R元	3人	8人	8人	11人
新規就農者数	R元	2人	7人	6人	13人
遊休農地解消面積	R元	1.3ha	6ha	12ha	19ha

関連する
SDGs の目標



施 策	KPI
1-3-1 地域内経済循環の構築 ① 商工業者への経営支援充実と意欲的な経営者の育成を行います。 ② 地域に根ざした商店街づくりと買物弱者支援を進め、地域内消費を推進します。 ③ 観光客の村内消費の活性化を進めます。	
1-3-2 将来につながる新たな産業基盤の形成 ① 南信州 14 市町村の協働により、工業技術センター及び EMC センターの試験、機能評価を強化し、飯伊地域の企業の新たな研究開発を支援します。また、信州大学共同研究講座の運営を支援し、産業振興に寄与する知の拠点の形成を進めます。 ② 七久里地区に隣接する飯田市山本地区とリニア発生土を活用し、産業団地などを形成することで、雇用の場を一体的に進めます。	・ 工業技術センター EMCセンター施設利用件数 ・ 信大航空機システム 共同研究講座学位 取得者における地 域内就職者数
1-3-3 村内産業の育成としごとづくり ① 製造業等の販路拡大を支援します。 ② 新たな起業に取り組むグループ、個人を支援するとともに新たな企業誘致に取り組みます。 ③ 地域の特性を活かした農産物の栽培を支援します。 ④ 多くの特産物研究がなされるよう取り組みを進めていきます。 ⑤ 地域の高齢者が働き続けられる仕事の創出に取り組みます。 ⑥ 大都市圏から村内に移住するUIJターン者の就業等を支援します。	・ 村内企業従業員数 （経済構造実態調査） ・ 地元滞留率 ・ 創業者数 ・ UIJターン就業支援事 業による移住者数

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績値 (R5)	新目標値
工業技術センター、EMCセンター施設利用件数	H30年度	897人	900件	844件	R9 850件
信大航空機システム共同研究講座学位取得者における地域内就職者数	H27～ R元年度	-	R2年度～ R6年度 5人	R2年度～ R5年度 1人	R6年度 終了
村内企業従業員数（経済構造実態調査）	H30年	972人	980人	848人	R9 850人
地元滞留率	H31年	10.9%	11%	R3年 8.3%	R9 11%
創業者数	H27～ R元年度	3人	R2年度～ R6年度 5人	R2年度～ R5年度 4人	R2年度～ R9年度 8人
UIJターン就業・創業移住支援事業による移住者数	R元年度	0人	R2年度～ R6年度 10人	R2年度～ R5年度 2人	R2年度～ R9年度 6人



七久里開発予定地

2. ひとのながれ

基本目標 2 定住人口の維持や人口減少の緩和のため居住等の環境を充実させる

(年度)

数値目標	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
将来人口	H31	6,150 人	5,740 人	5,931 人	5,375 人
社会動態（転入）	H27～R 元 転入者平均値	192 人	210 人	191 人	191 人
定住支援センターが関わる 移住者数	H27～H30 移住者平均値	45 人	69 人	H27-R5 平均 48 人	48 人

【基本的方向】

定住を促進するうえで、暮らしの基盤となる「住まい」の確保は必要不可欠であり、村営住宅、宅地、空き家の確保など居住環境を整備することが重要となります。

第 1 期計画策定後の平成 27 年度(2015 年)～令和 5 年度(2024 年)の 9 年間で、定住支援センターが関わった移住者数は、429 人にのぼります。

また、空き家の活用についても地域における取組みもあり、利活用が進むなど、第 1 期以降一定程度の成果がみられています。

今後は、更なる本村への移住促進に向けて、対外的な PR の展開や、都市圏におけるネットワークの構築、村の良さを理解してもらうための相談会や移住体験ツアーなどを行います。また、関係人口※の拡大を定住に結びつけるような取組みも大切です。

定住のための居住環境の充実に向けては、村営住宅の建設に加え、民間企業との連携による居住の受け皿づくりを図ります。

これまでも村で受け入れてきた「地域おこし協力隊」については、引き続き活躍の機会の提供に努め、受け入れ先や地元との連携強化を図ります。

上記の取組みを推進し、従来の阿智村にない新しい価値観を持つ人々を受け入れることにより、阿智村の魅力をさらに発展させることをめざします。

※ 関係人口：「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと

関連する
SDGs の目標



施 策	KPI
2-1-1 定住促進に向けた体制づくり ① 移住希望者(UIJターン者)への積極的な支援を行うとともに、定住におけるワンストップサービス化を進めます。 ② 地域での定住促進の取り組みや定住支援センターをサポートする定住支援員設置を継続します。 ③ 阿智家族ウェブサイトの充実と情報発信を継続します。 ④ 移住定住希望者を対象とし、村内各所を回るツアーを実施します。 ⑤ 関係人口の拡大に向け、大学や外部研究者等との交流連携や住民活動に役立つ取り組みを進めます。 ⑥ 奨学金の返還支援事業や就業祝い金事業により、若者の定着を推進します。	・ 移住相談件数
2-1-2 定住促進のため居住環境充実にに向けた支援 ① 定住促進住宅の建設を検討します。 ② 分譲住宅地の確保、未契約の分譲地の販売促進を図ります。 ③ 定住促進のための住宅新增改築等支援金の交付を継続します。 ④ 民間企業や個人が建築する1棟4戸以上の住宅建設費に対し、補助金を交付し住宅建設を促進します。	
2-1-3 空き家の適正管理と活用促進 ① 空き家の再調査、情報収集を継続し、空き家の有効活用を促進します。 ② 民間事業者との連携を継続し空き家の取引を円滑に進めます。 ③ 空き家等対策協議会等により、特定空き家対策を推進します。	・ 空き家利活用件数
2-1-4 村営住宅の整備と運営 ① 計画的な環境整備、リフォーム、建替え、解体、払い下げを実施します。	
2-1-5 ふるさと交流事業の推進 ① 友好関係市町村やふるさと大使、阿智村人会、関係団体との連携を深めます。	
2-1-6 地域おこし協力隊の継続的な確保 ① 地域おこし協力隊を継続採用していきます。	・ 地域おこし協力隊採用数

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
移住相談件数	H30	124件	150件	132件	150件
空き家利活用件数	H27～R元	52件	H27～R6 100件	H27～R5 92件	H27～R9 125件
地域おこし協力隊採用数	H27～R元	8人	R2～R6 8人	R2～R5 8人	R2～R9 16人



阿智家族公式キャラクター「星乃 ももか」

3. 結婚・子育ての切れ目ない支援

基本目標3 若者が希望をもって結婚、子育てできる村をめざす

(年度)

数値目標	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
合計特殊出生率	H30 年	1.41	1.70	0.86	1.26

【基本的方向】

近年、若者の価値観は、多様化してきており、「若者実態調査」からは、自然豊かな農村で子育てをしたい、故郷阿智村に帰って子育てをしたいと思っている若者も多く見られました。

第1期では、数値目標として合計特殊出生率の目標値を1.9としましたが、平成30年(2018年)の合計特殊出生率は1.41となり、平成26年の基準値を下回ってしまいました。少子化は、様々な要因があることが想定され、施策の効果が発現するまでには時間を要しますが、令和6年度(2024年度)に開設された「阿智村こども家庭センター あちっ子プラザ」を中心とした親世代への共感や支援サービス事業の充実、サポート体制の活用により、今後も子どもを産み育てやすい環境づくりを進めます。

村の生涯未婚率※は男性で19.9%、女性で8.5%であり、(国：男性：23.37%、女性：14.06%) (県：男性：22.88%、女性：11.21%) 男女とも国及び県の数値よりも低くなっています。

しかしながら、未婚率は増加傾向にあることから、官民連携により、イベント開催支援、ジェンダー平等に向けた取り組みを通じて、結婚しやすい環境づくりを進めます。

学校教育に関しては、リニア中央新幹線の開通を見据え、多様な学習機会の創設や施設の整備を推進します。また、地域に根差した教育の推進により、村の次世代を担う若者の育成に努めます。

以上のような実態を踏まえ、若者が「阿智村で結婚したい」「阿智村で子育てしたい」「阿智村でもう一人産みたい」と思える村づくりを進めます。

※ 生涯未婚率：(50歳時の未婚率であり、45～49歳と50～54歳の未婚率の単純平均により算出)

関連する
SDGsの目標



施策	KPI
3-1-1 結婚支援の推進 ① 多様なニーズに応える結婚支援体制を構築します。 ② 婚活や結婚に対する地域の理解を深めます。 ③ ジェンダー平等に向けた取り組みを推進し、誰もが暮らしやすい地域をめざします。	・村内在住者の結婚人数

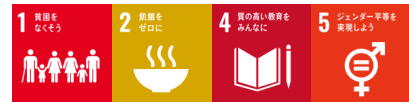
(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
村内在住者の結婚人数	R元	39人	42人	10人	19人



富士見台高原

関 連 す る
SDGs の目標



施策	KPI
3-2-1 子育て支援の推進 ① 「阿智村こども家庭センター」において妊産婦および0歳から18歳までの児童とその家族へ向け、子育てに関する支援を充実・推進します。 ② こどもの意見や思い、権利を重視した「こどもまんなか」の施策を展開します。 ③ 健全な妊娠出産のため、思春期及び乳幼児期からの性教育に取り組み、を充実させます。 ④ 子育て支援給付事業を拡充します。 ⑤ 子どもを望む夫婦を支援します。不妊治療費用を助成します。 ⑥ 妊娠期を健やかに過ごすために支援します。 ⑦ 地域全体でこどもに寄り添うことができる社会的養育の推進を図ります。 ⑧ 保育サポーター等、地域や身近な子育て支援者の活用に努めます。	・地域子育て支援拠点事業拠点施設数
3-2-2 保育環境の維持・充実 ① 6園体制を維持しますが、園児数の減少によっては休園等の対応を検討します。 ② 各保育園を各地域の子育て拠点と位置付けます。 ③ 各園に園長を配置するなどの組織の充実を図ります。 ④ 保育園の計画的な整備を行います。 ⑤ 未満児保育、延長保育を充実します。	・居住している地域の保育園の満足度
3-2-3 学童保育の推進 ① 全小学校区で学童保育事業を継続するために、業務委託の導入、安心安全な環境の提供のため適正な定員数を維持します。また、学童保育支援員の確保と資質向上に努めます。 ② 学童保育の対象でない放課後児童の受け皿として放課後子供教室を地域や学校と連携のもと開催します。	・放課後児童健全育成事業(学童保育)待機児童数

施策	KPI
3-2-4 学習機会と情報の提供 ① 子どもを産み育てることの喜びと責任について、保護者が考えるきっかけとなるように学習機会と情報提供を行います。 ② 子育てや育児に関する情報の発信や学習の機会作りに努めます。 ③ 乳幼児の健康な発育発達を支援します。 ④ 公式LINE、ホームページ・あち子育てサイトを有効利用し、相談予約のオンライン対応し、いつでも村の子育て情報が得られ、気軽に相談できる仕組みをつくりまします。 ⑤ 妊娠、出産、子育て期の切れ目ない食育を推進します。 ⑥ 地域住民を対象に学習会や講演会の企画をし、家庭での子育てを支援します。 ⑦ 「あちっ子ライフ」を推進し、健全で健康な生活を送る習慣づくりの支援をします。	・ 1, 2歳児の年齢別教室の参加者数

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
地域子育て支援拠点事業拠点施設数	R 元	1 カ所	2カ所	1カ所	1カ所
居住している地域の保育園の満足度	R 元	77%	85%	92%	90%
放課後児童健全育成事業 (学童保育待機児童数)	R 元	10人	0人	0人	0人
1, 2歳児の年齢別教室の参加者数	R 元	184人	200人	130人	120人

関 連 す る
SDGs の目標



施 策	KPI
3-3-1 地域に根ざした学校教育の推進 ① 急激な社会情勢の変化から、阿智村の学校のあり方を検討します。 ② 複式学級や小学校専科指導に対応した教員（教科指導員）を配置します。 ③ 教科指導や特別支援教育等を支援するための各種専門主事、支援員の配置に努めます。 ④ 保育園から小学校、中学校までの12年間を通じた英語教育の充実を図ります。 ⑤ 学校運営協議会制度の活性化により、学校運営の充実を図ります。 ⑥ 小学校高学年の放課後学習教室から中学校若駒アカデミーまでの学習支援体制を確立します。 ⑦ 老朽化した施設設備を改修・整備し、時代に適合したよりよい教育環境づくりをめざします。 ⑧ 文部科学省「GIGAスクール構想の実現について」「令和の日本型学校教育」を踏まえたICT教育推進のための環境整備・活用を図ります。 ⑨ 不登校児童生徒のための教育支援センターを充実します。 ⑩ 小中学校9年間の系統性と、学校と地域の繋がりを大事にした「ふるさと学習」を推進します。	・全国学力・学習状況調査 学力テスト結果(小学校) ・全国学力・学習状況調査 学力テスト結果(中学校)
3-3-2 阿智高校の存続と発展 ① 阿智高校神坂学習塾を支援します。 ② 阿智高校と連携し地域におけるキャリア教育を推進します。	・阿智高校地域政策コース地域と連携した年間授業時間数

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
全国学力テスト(国語・算数)平均正答率(小学校)	R元	全国平均値以上	全国平均値以上	全国平均以上	全国平均以上
全国学力テスト(国語・数学)平均正答率(中学校)	R元	全国平均値以下	全国平均値以上	全国平均以下	全国平均以上
阿智高校地域政策コース地域と連携した年間授業時間数	R元	105時間(2年) 70時間(3年)	現状維持	現状維持	現状維持

4. まちづくり

基本目標 4 各地域の特性を生かし、安心安全なふるさとづくりをめざす

(年度)

数値目標	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
生産年齢人口割合 (15～65 歳)	H30	52.7%	53%	52.2%	47.9%

【基本的方向】

阿智村で暮らし続けるためには、誰もが安心して生活できる環境づくりが重要です。また、地域における人と人とのつながりづくりは、幸せに暮らすために欠かすことができません。

集落の維持と暮らし分野では、公共交通の運行形態の見直しに向けた調査や、安定的な水資源の供給に向けてアセットマネジメント・経営戦略の策定、保健師の安定的な確保による保健指導、高齢者の見守りネットワークなどに取り組んできました。今後についても、住民のニーズを踏まえた利用しやすい公共交通の仕組みづくり、災害に強い地域コミュニティの育成、情報インフラの充実、住民の健康づくりに対する意識啓発、地域包括ケアシステムの充実等に向けて取り組みます。

環境・エネルギー分野では、住民の環境保全への意識を高め、自然環境の保全や省資源・省エネルギーの推進に取り組んできました。今後については、地域おこし協力隊との連携も視野に、森林整備と資源の利活用による産業の活性化をめざします。

自治と協働の村づくり分野では、引き続き、全村博物館の展開や村づくり委員会によるまちづくり活動への支援、社会教育環境の充実に向けた支援を行います。

関 連 す る
SDGs の目標



施策	KPI
4-1-1 公共交通利用環境の向上 ① 公共交通に対する地域ごとの住民ニーズを把握し運行改善につなげます。 ② 広域交通網実現のため、近隣市町村と連携し取り組みます。 ③ 観光振興組織との連携による、公共交通の充実に努めます。 ④ 通学・通院の交通確保に努めます。	・ 公共交通利用者数
4-1-2 災害に強い地域づくり ① 地域防災力の向上のためハザードマップを基に地区防災マップ作成を支援します。 ② 防災・減災のための計画づくりを進めます。 ③ 消防団組織の体制強化、活動内容のあり方研究に取り組みます。 ④ 防災無線の安定化を図ります。 ⑤ 様々な自然災害等に対応するため、避難所の機能強化を進めます。	
4-1-3 生活基盤の整備 ① 道路の安全性に重点をおき維持修繕工事を堆進します。 ② 橋梁長寿命化修繕計画により安全性を最優先に修繕を進めます。 ③ 水源、施設の整備、維持管理を行い、安全な水道水の安定供給、安定的な水質での配水をめざします。 ④ 未水洗化世帯に水洗化の普及促進を図り、普及率、接続率の向上をめざします。 ⑤ 住民交流の活性化と交流人口の増を図るためICTを活用した広報誌やホームページの改善を行います。 ⑥ CATV網や補完局等を利用したラジオ難聴地域の解消等、多様な情報の提供に取り組みます。 ⑦ 交通死亡事故ゼロをめざし、交通安全運動を実施します。 ⑧ 運動公園の再整備により、村民の全ての世代が集い、運動や体力づくり、遊びや自然体験、交流や活動の場として活用できる癒しの空間を創造します。 ⑨ デジタル人材の育成と各分野におけるデジタル技術の活用、村民サービスを向上するためのデジタル化を推進します。 ⑩ デジタル基盤の整備を推進し、誰一人取り残されないための取組を進めます。	・ 水洗化率

施策	KPI
4-1-4 健康づくりの推進 ① 地域での健康づくりを支援します。「あち健康プラン21」を推進し、住民の健康づくりに関する意識向上に努めます。 ② 健診受診の定着により、脳卒中予防や生活習慣病の改善に取り組みます。 ③ がん検診受診を勧め、早期発見・早期治療につなげます。 ④ 食による健康づくりを推進します。 ⑤ 誰もが自分らしく健康に暮らせる環境づくりを進めます。 ⑥ 飯田下伊那診療連携システムを推進し中核病院との連携をはかります。	・ 特定健診受診率
4-1-5 安心して暮らせる医療・福祉環境の構築 ① 地域包括ケアシステムを構築します。 ② 生きがい講座やサロンなどの居場所や交流の場の整備により高齢者の社会参加を促すとともに、介護予防に取り組みます。 ③ 様々な主体による見守りや支え合いの取り組みを支援し、見守りや支え合いの仕組みづくりの構築をめざします。 ④ 自分らしく安心して住み続けられる住まいをめざします。 ⑤ 安心して在宅で医療を受けられる環境を整備するとともに、医療と介護の連携を図るための仕組みづくりをめざします。 ⑥ 認知症になっても暮らし続けられる地域づくり、認知症予防を推進します。 ⑦ 属性によらない共生社会をめざし、社会参加、生きがいづくりを推進します。	・ ふれあいサロン実施団体 ・ おたっしゅかい利用実人数

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
公共交通利用者数	H30	260,926人	260,000人	210,405人	210,000人
水洗化率	R元	95%	97%	95%	97%
特定健診受診率	H30	43.6%	60%	48.8%	56%
ふれあいサロン実施団体	R元	49団体	50団体	53団体	53団体

おたっしゃかい利用実人数	R元	56人	65人	73人	75人
--------------	----	-----	-----	-----	-----

関連する
SDGsの目標



施策	KPI
4-2-1 自然環境・生活環境の保全 ① 条例等の整備により、水資源、自然環境等の保護を図ります。 ② ごみの不法投棄対策を行います。 ③ 環境学習の推進等により、地球環境に対する意識の啓発・高揚に取り組めます。	・一人一日あたりのごみ排出量
4-2-2 森林整備と活用 ① 計画的な森林整備を推進します。 ② 多様な用途への森林資源の利用と地域内の資源循環の推進や仕組みづくりに取り組めます。 ③ 路網を始めとする基盤の強化を図り、木材搬出、山林管理のコスト軽減に取り組めます。 ④ 農林業に大きな被害を与えている獣害対策を強化します。 ⑤ 林業関係団体の育成を支援し、関係者の裾野を拡大します。	・木材搬出量 ・鳥獣による農林業被害額
4-2-3 再生可能エネルギーの導入とエネルギー自給 ① 家庭や事業所等へ再生可能エネルギー設備導入への支援を行いエネルギーの自給確保を推進します。	・住宅等の再生可能エネルギー設備導入件数

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
木材搬出量	H30	2,057m ³	3,000m ³	4,075m ³	4,500m ³
鳥獣による農林業被害額	H30	206万円	100万円	182万円	150万円
住宅等の再生可能エネルギー設備導入件数（補助金による支援件数）	H27～R元	80件	R2～R6 80件	R2～R5 75件	R7～R9 50件
阿智村一人一日あたりのごみ排出量	H30	833g	816g	778g	769g

関連する
SDGs の目標



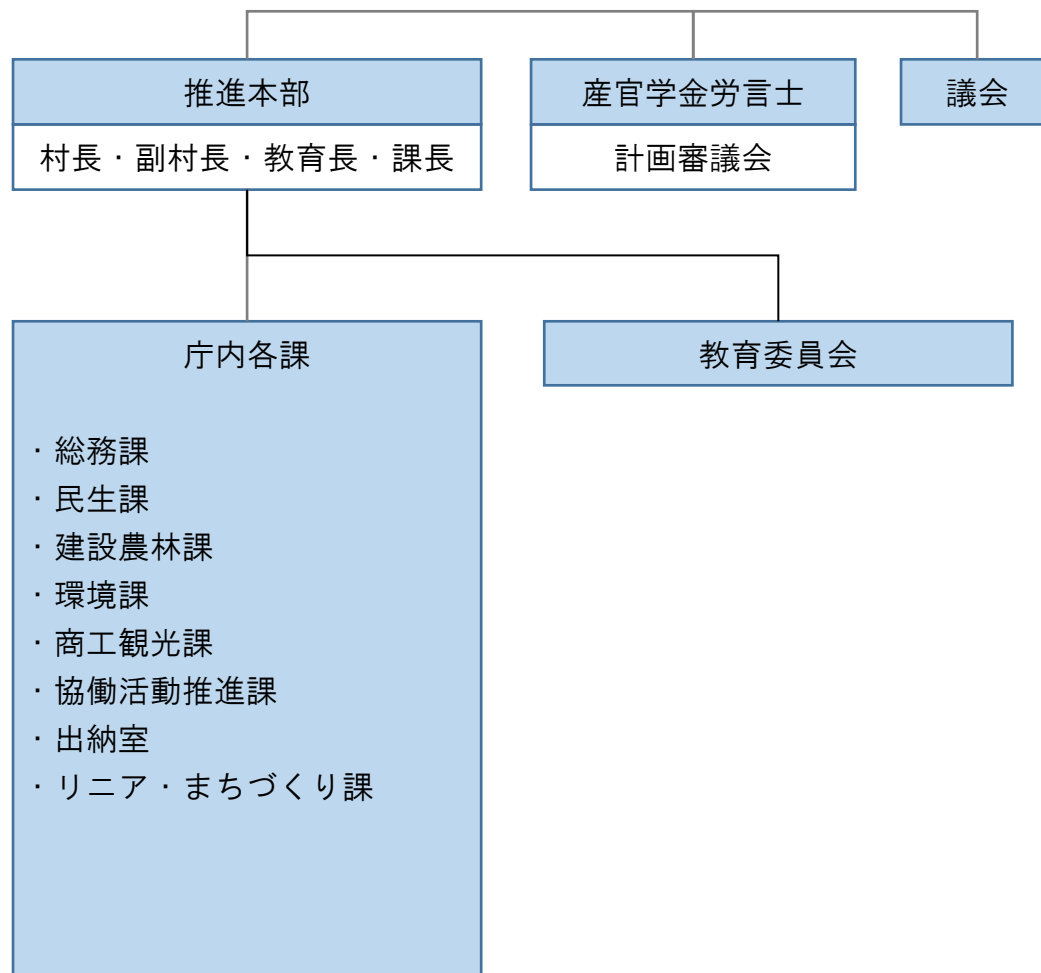
施策	KPI
4-3-1 全村博物館構想の推進 ① 住民の学習要求に基づいて地域資源に関する学習や活用に様々な切り口から取り組み、持続可能な地域をめざします。 ② 学校教育や研究者と連携し、地域資源を次世代へ継承します。 ③ 村内外へ情報を発信し、活動を共有するとともに阿智村への誘客を図ります。 ④ 地域づくりと結びつけた、住民と協働する文化財保護をめざします。 ⑤ 農村記録写真の保存・展示環境の整備を行います。	・ 認定地域資源数
4-3-2 地域づくりの推進 ① 自治会活動をより活発にし、住民主体の村づくりを進めるための支援を継続します。 ② 集落支援員の設置を継続し、地域の課題解決や集落の維持、地域活性化を推進します。 ③ 住民の自主的な取り組みを支える村づくり団体（村づくり委員会）への支援を継続し協働の取り組みを進めます。 ④ 振興室を存続し、自治会や振興協議会と協働して地域振興に向けた取り組みを推進します。	・ 集落支援員の配置 ・ 村づくり委員会活動団体数
4-3-3 社会教育の推進 ① 地区公民館における地域学習、様々な分野における自主的な学習、社会教育研究集会を軸とした系統的な学習を通し、住民主体の活動を支援します。 ② 読書活動を推進し、読書および図書館活動の充実を進めます。 ③ 社会体育施設の充実と社会体育の振興をはかります。 ④ 体育団体の活動、チャレンジゆうAchiの自立を支援します。	

(年度)

KPI	基準値		当初目標値 (R6)	実績数値 (R5)	新目標値 (R9)
認定地域資源新規登録数	H27～R元	55件	R2～R6 45件	R2～R6 0件	R7～R9 27件
集落支援員の配置	R元	4人	5人	7人	8人
村づくり委員会活動団体新規登録数	H27～R元	15団体	R2～R6 5団体	R2～R5 20団体	R7～R9 15団体

第4章 計画の推進に向けて

1. 策定体制



2. 推進・検証体制

本計画の施策、・事業の検証は計画審議会、議会とともに検証し、必要な改善などを行います。

【資料】SDGsの17のゴール（目標）

番号	目標	番号	目標
 1 貧困をなくそう	【貧困】 貧困をなくそう あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる。	 10 人や国の不平等をなくそう	【不平等】 人や国の不平等をなくそう 国内及び各国家間の不平等を是正する。
 2 飢餓をゼロに	【飢餓】 飢餓をゼロに 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する。	 11 住み続けられるまちづくりを	【持続可能な都市】 住み続けられるまちづくりを 包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する。
 3 すべての人に健康と福祉を	【保健】 すべての人に健康と福祉を あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。	 12 つくる責任 つかう責任	【持続可能な消費と生産】 つくる責任つかう責任 持続可能な消費生産形態を確保する。
 4 質の高い教育をみんなに	【教育】 質の高い教育をみんなに すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。	 13 気候変動に具体的な対策を	【気候変動】 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
 5 ジェンダー平等を実現しよう	【ジェンダー】 ジェンダー平等を実現しよう ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う。	 14 海の豊かさを守ろう	【海洋資源】 海の豊かさを守ろう 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する。
 6 安全な水とトイレを世界中に	【水・衛生】 安全な水とトイレを世界中に すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。	 15 陸の豊かさを守ろう	【陸上資源】 陸の豊かさを守ろう 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。
 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	【エネルギー】 エネルギーをみんなにそしてクリーンに すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する。	 16 平和と公正をすべての人に	【平和】 平和と公正をすべての人に 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する。
 8 働きがいも経済成長も	【経済成長と雇用】 働きがいも経済成長も 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する。	 17 パートナリープで目標を達成しよう	【実施手段】 パートナリープで目標を実現しよう 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。
 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	【インフラ、産業化、イノベーション】 産業と技術革新の基盤をつくろう 強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。		



星ふるさと 阿智村

～日本一の星空と花桃といで湯の郷～

まち・ひと・しごと創生
人口ビジョン・総合戦略（第２期計画改定版）

令和７年３月

発行 阿智村
編集 阿智村総務課
〒395-0303 長野県下伊那郡阿智村駒場 483
TEL 0265-43-2220(代) FAX 0265-43-3940(代)
